

宇治市観光案内サイン整備ガイドライン

平成28年4月

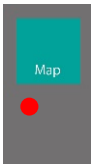
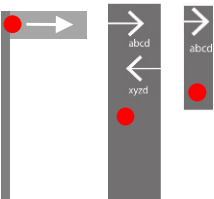
1. サインシステム	1) 計画するサインの種類と基本となるシステム 2) 案内, 誘導のパターン	1 3
2. 配置計画	1) 配置の考え方 2) 配置の基準 3) 配置の「方向」の考え方	4 6 7
3. 情報計画	1) 情報量のコントロール 2) 多言語対応 3) 表記の基準	8 11 13
4. デザイン	1) 基本的な考え方 2) 整備手法 3) 整備の方向性 4) 推奨デザイン案 5) シュミレーション写真 6) デザイン検討案 7) リノベーションデザイン案 8) 表示デザイン 9) 表示の更新検討 10) 推奨案の選定	15 17 18 21 22 31 35 40 43 49
5. モデル整備配置案	1) モデル地区整備計画案	50
6. 運用計画	1) ガイドラインの運用 2) 検証と振り返り 3) サインのメンテナンス	55 57 58

1. サインシステム

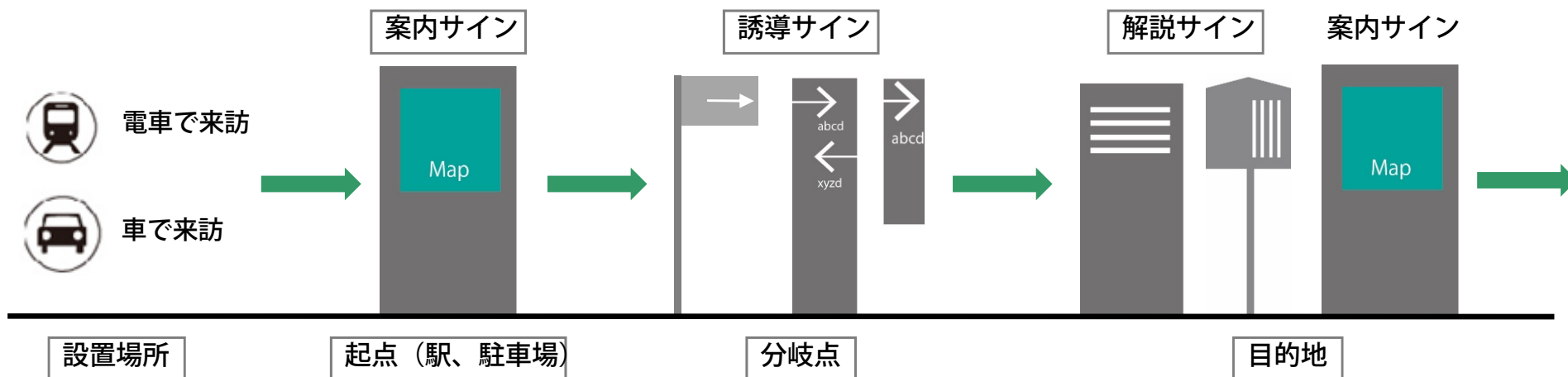
サインシステム

1) 計画するサインの種類と基本となるシステム

本サイン計画において対象とするサインの種類、基本システムを以下に整理する

サインの種類		基本の掲載情報	必要に応じて掲載する情報
地図系	案内サイン 	・周辺の案内地図（付近） ・方位 ・現在地	・周辺著名地点の誘導
矢印系	誘導サイン 	・周辺の著名地点 ・周辺の公共交通 ・方位	
記名系 解説系	解説サイン 	・施設名称 ・解説	・周辺著名地点の誘導

●基本となるシステム サインによる案内、誘導の流れ



2) 案内、誘導のパターン

サインの案内、誘導パターンを以下に示す

- 公共交通拠点（鉄道駅）周辺の案内サインで、現在地、方角、目的地との位置関係を大まかに確認する。

*案内サインの情報と手元マップあるいはスマートフォン等の情報とを確認する。

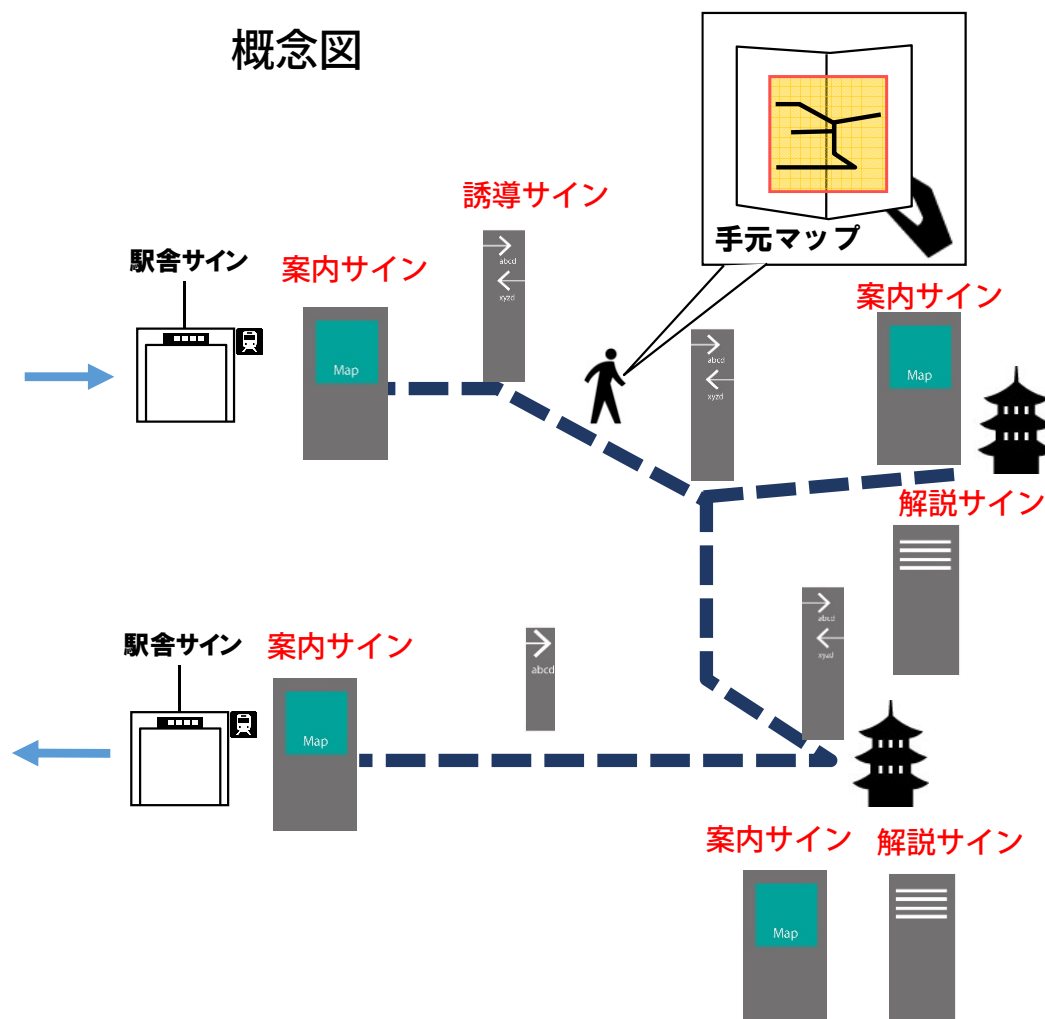
- ルート上の分岐点で誘導サインと手元マップを確認しながら目的地を目指して移動する。

*手元マップに案内サインの位置をプロットすることで、利便性が高まる。

目的地

- 解説サインやwebから情報を得る。
- 目的地周辺の案内サインを確認し、次のルート（目的地）を目指す。

概念図



*基本的に手元マップあるいはスマートフォン等の情報端末はほとんどの観光客が持っていると考えられる。

2. 配置計画

1) 配置の考え方

利用者にわかりやすいサインの配置について以下の考え方を示す

●過剰な配置を避ける

- ・既存サインを整理、統合し、最小限必要なサイン配置とする。

●利用者が多い場所に必要な情報を配置

- ・公共交通拠点、主要な交差点、著名地点などに配置する。

●情報が途切れない配置

- ・主要なルートにあっては情報の連続性を確保する。
- ・散策するまちなかエリアでは最小限必要となる箇所に配置する。

●配置のルール化（○○には○○の情報が必ずある）

- ・最初の一步となる地点には案内サインあるいは誘導サインがある。など。

●景観に配慮した配置

- ・まちなみや自然、歴史的景観を阻害する配置としない。

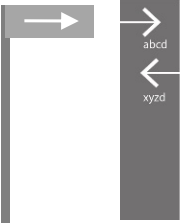
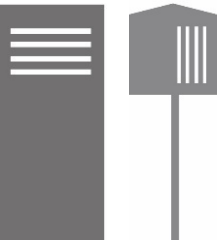
●ユニバーサルデザインに配慮した配置

- ・誰にでもわかりやすく、見やすい配置とする。

配置計画

2) 配置の基準

情報の配置基準を以下に示す（案内サイン・誘導サイン・解説サイン）

種類	設置場所
● 案内 	地図系 ・公共交通の起点 ・主要な交差点 ・目的地（主要な観光地）
● 誘導 	矢印系 ・公共交通の起点 ・主要な交差点 ・主要なルートの分岐点 ・まちなかエリア、源氏・大吉山エリアのポイント
● 解説 	記名系 解説系 ・目的地（主要な観光地） ・まちなかエリア、源氏・大吉山エリアの歴史スポット

配置の概念図

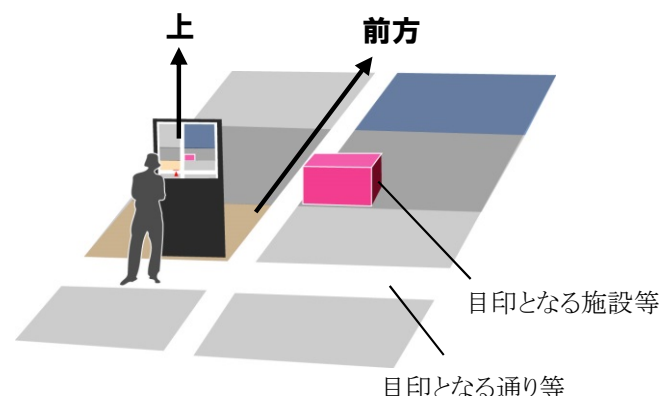


まちなかエリア ● 案内サイン ● 誘導サイン ● 解説サイン

3) 配置の「方向」の考え方

案内サインおよび誘導サインの配置の「方向」についての基準を以下に示す

案内サイン地図の表示方向

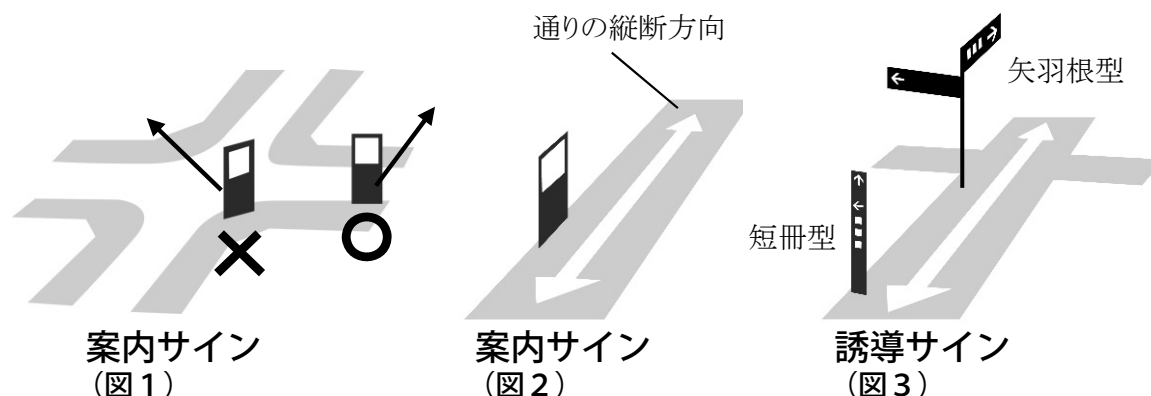


- 案内サインの地図は、実際の地形と地図の表示方向を合わせる。

理由；

- ・地図表記（2km四方位程度）では、目印となる施設や通りと地図を見比べやすい。
- ・自分の立っている方向と地図の方向が一致しているのでわかりやすい。

サインの設置方向



- 交差点部での案内サインの設置向きは、斜め配置としない（通りと平行に設置する）（図1）

理由：通りとの関係があいまいとなり、方向感覚がつかみにくい

- 案内サインの設置向きは、通りの縦断方向に対して水平に設置する（図2）

理由：設置スペースを確保しやすい（歩道幅員を減じない）

：直近の通りとの位置関係がわかりやすい

- 誘導サインは、矢羽根型は表示板面を目的地の方向に向けて設置する。

ただし通りの中間点等設置場所の状況に応じて直交に配置することもある。

短冊型については通りの縦断方向に対し直交して設置する（図3）

理由：矢羽根型～直接目的地を指し示すため、直感的にわかりやすい

：短冊型～表示が歩行者の目に入りやすい。両面表示が可能

3. 情報計画

情報計画

1) 情報量のコントロール（表示内容，配置）

サインの表示の情報量をコントロールし，利用者にわかりやすいサインを目指す

考え方

表示内容はわかりやすさを優先して
情報量をコントロールする

情報の優先順位を明確にする
その場所で一番重要な情報を絞り込む



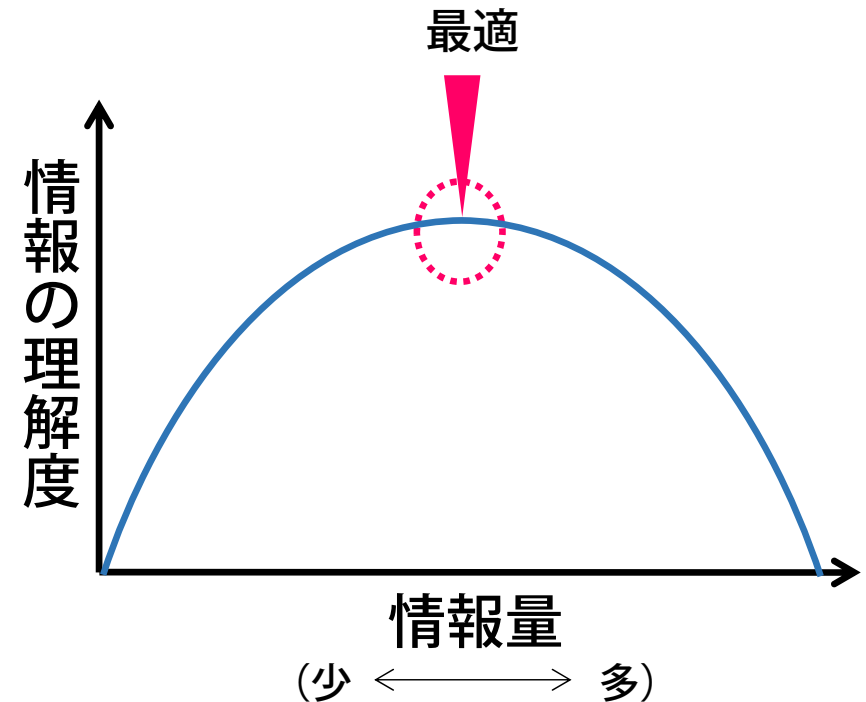
- ・ 情報量の補完
- ・ 情報の理解を促す工夫

最適な場所での情報配置

- ・ 起点となる場所で最初の一步を促すサイン等、
利用者の目線に立った情報提供

表示のグラフィックデザインの工夫

- ・ 統一的なデザイン
- ・ ピクトグラム等の図や記号を活用
- ・ 文字の大きさやレイアウトのメリハリ
- ・ ユニバーサルデザインに配慮した配色



各種の媒体を用いて相互に補完

- ・ 手元マップやデジタル情報との連携
- ・ QRコードを利用した多言語翻訳システムなどの活用

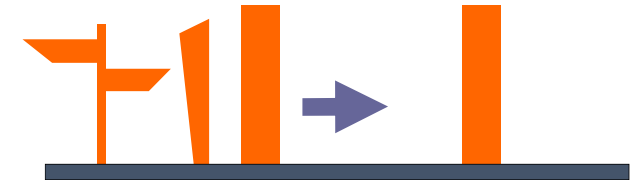
1) 情報量のコントロール（数量）

各種サインの数量をコントロールし，利用者にわかりやすいサインを目指す

考え方

●既存のサインで情報提供が過剰な場合は，不要なサインを撤去する

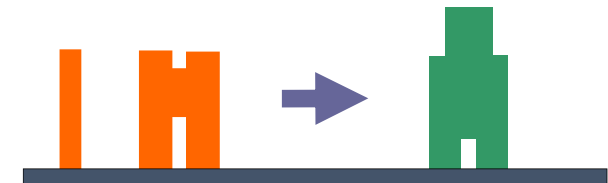
撤去



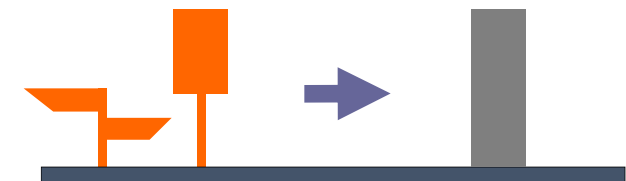
●情報を集約する

- 既存サインをリノベーションすることで、情報の集約化を図る。
- 複数の既存サインを新設サインに置き換えることで、情報の集約化を図る。

集約



既存サインのリノベーション



複数の既存サインを新設サインに置き換え

■ 既存サイン ■ 改修サイン ■ 新設サイン

2) 多言語対応

多言語対応については表示面の大きさと情報量とのバランスを考慮し、以下の方針を立てる

対応言語の考え方

多言語対応は原則2か国語表記（日本語・英語）とする。

誘導表記など情報量が限定されているものについては、4か国語または5か国語表記も検討する。

＊4か国語（日本語・英語・中国語（簡体字）・ハングル）、5か国語は中国語の繁体字が加わる。

●メリット/デメリットの整理

	メリット	デメリット
2か国語表記 （日本語、英語）	・4か国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。	・英語に不慣れな人には情報が理解できない場合がある。
2か国語+最小限の外国語表記 （日本語、英語+その他の言語）	・4か国語表記と比較してサイン表示がシンプルでわかりやすい。 ・最小限の表記でも、その国の人にはわかりやすい。	・その他の言語を何にするかの判断が必要。 ・設置場所によって、その他の言語を使い分けるとすると、地域によって外国語表記に違いがでてしまう。
4か国語表記（5か国語表記） （日本語、英語、中国語、ハングル） ＊ 宇治市は台湾系の観光客が多いため、中国語は簡体字と繁体字を使用する。	・近年来訪者が多い中国系、韓国系の観光客に対して母国語で情報提供できる。 ・もてなしを受けている満足感がある。	・サイン表示が煩雑、且つ文字の大きさが小さくなる。特に日本人にとってわかりにくい。 ・翻訳の内容チェックなど、制作の難易度が高い。

ー参考資料ー

「公共交通機関における外国語等による情報提供促進措置ガイドライン」（国土交通省H18）

案内標識により情報提供を行う場合には表示するスペースに限りがあるため、日本語に加え、代表的な言語である英語と、視覚により情報伝達が可能なピクトグラムの3種類を用いた情報提供を行うことを基本とする。

英語表記の方法

国の基準に基づき、固有名詞はローマ字、普通名詞は英語で表記する。

＊「観光活性化標識ガイドライン」（国土交通省 H17）

寺院・神社など観光施設等の名称はすべて固有名詞として扱う。

●表示の例

表示対象		表示例
山・川	大吉山	Mt.Daikichi-yama
	宇治川	Ujigawa-River
鉄道駅	京阪宇治駅	Keihan Uji Station (Sta.)
通り名	県通	Agata-dori Street(St.)
観光集客施設	平等院	Byodoin Temple
	宇治上神社	Ujigami-jinja Shrine
	源氏物語ミュージアム	The Tale of Genji Museum

－参考－ 英語表記の方法

A. ローマ字 + 英訳	Ujigami Shrine
B. ローマ字 + ローマ字	Ujigami-jinja
● C. ローマ字 + ローマ字 + 英訳	Ujigami-jinja Shrine

－ 外国人に対しても日本人に対しても理解可能なC案を推奨する。

＊ローマ字はヘボン式とする。

＊財団法人 都市づくりパブリックセンター
「歩行者のためのコミュニティサイン」 (H5)



3) 表記の基準

使用書体, 使用ピクトグラム, その他の記号

使用書体

サインには判読性の高い書体を使用する。

- 以下に標準的な文字の太さ (Medium) の書体を示す。使用する文字の大きさ等に応じて、太い(Bold)・細い(Regular)を使い分け、判読性を高める。
- 日本語については視認性の高いUD(ユニバーサルデザイン)フォントの使用を推奨する。

日本語書体例

A-OTF新ゴPro Medium 観光都市・宇治のブランド力

A-OTF UD新ゴ Pro Medium 観光都市・宇治のブランド力

英語書体例

Helvetica Medium ABCD fghijk 012345/.,

Univers 55 Roman ABCD fghijk 012345/.,

Frutiger 55 Roman ABCD fghijk 012345/.,

書体選定のポイント

可読性； 文章、文字列としての読みやすさ

視認性； 文字を明確に視認できる見易さ

識別性； 他の文字と判別でき、誤認しないわかりやすさ

使用ピクトグラム

JIS案内用図記号を使用する



参考となる記号

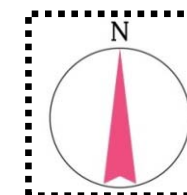
●宇治茶かおり回廊のピクト



●Green Map Uji



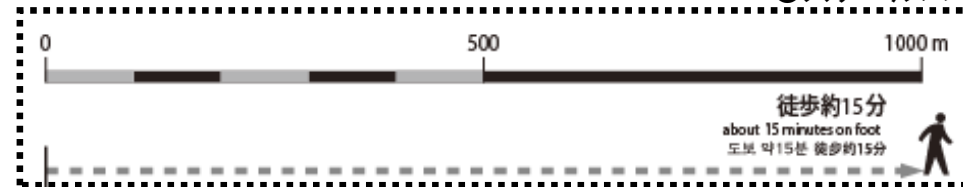
●方位記号



●現在地記号



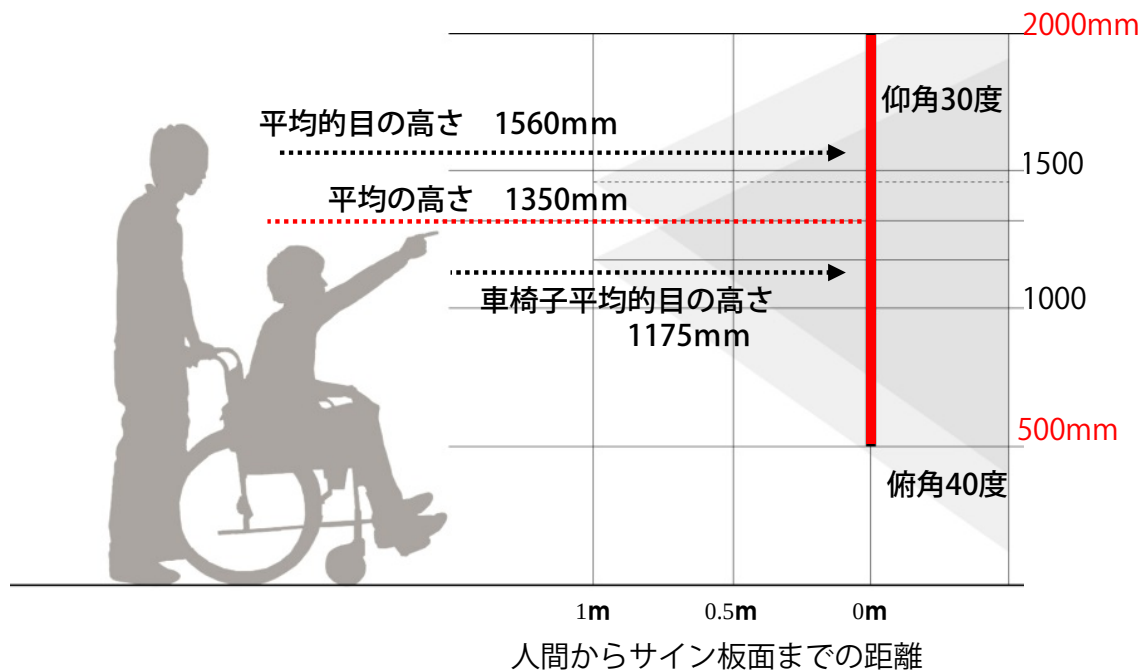
●スケールバー



掲出位置の基準

表示の掲出高さ（見易さの視点）

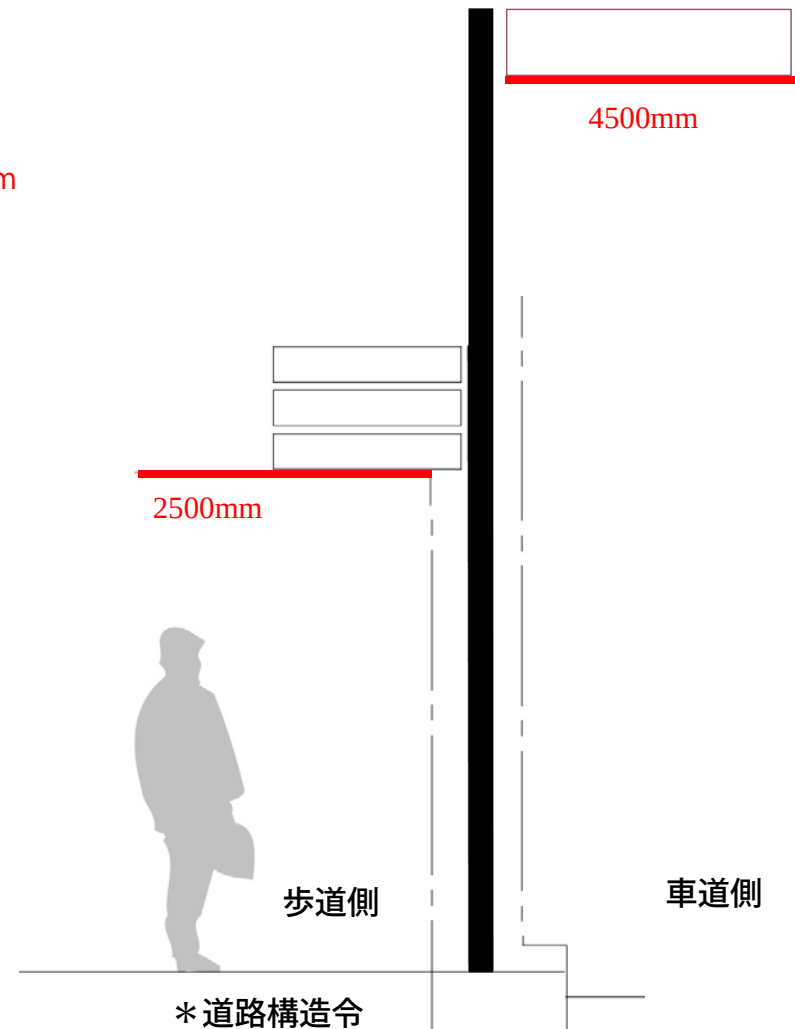
案内サインの掲出高さは、地面から1350mmを中心に、
最高高さを2000mm
最低高さを500mmの範囲を原則とする



* 公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン
(国土交通省 H19)

表示の掲出高さ（道路構造令より）

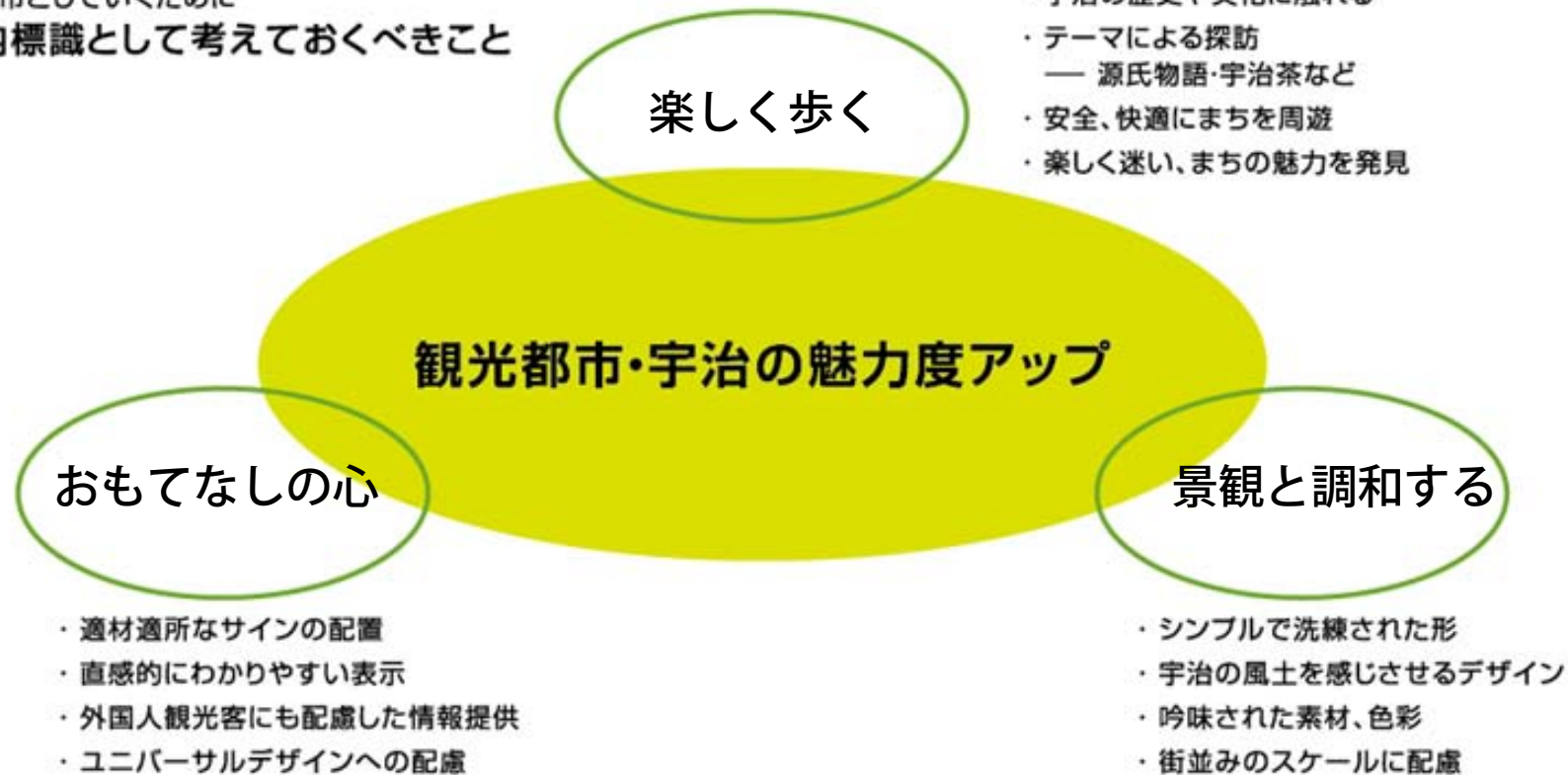
誘導サインなど、
歩道側のサイン板面は下端を地面から2500mm以上に設置する
車道側のサイン板面は下端を地面から4500mm以上に設置する



4. デザイン

1) 基本的な考え方

観光都市宇治のブランド力を高め
魅力ある都市としていくために
観光案内標識として考えておくべきこと



実現するための

手法
How to



現状維持



撤去



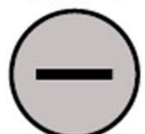
リノベーション



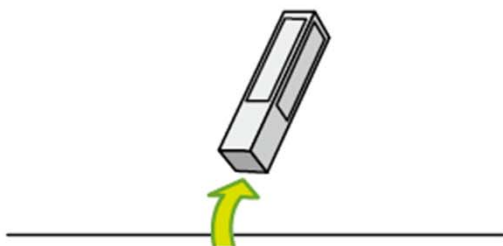
新規

2) 整備手法

STEP 1



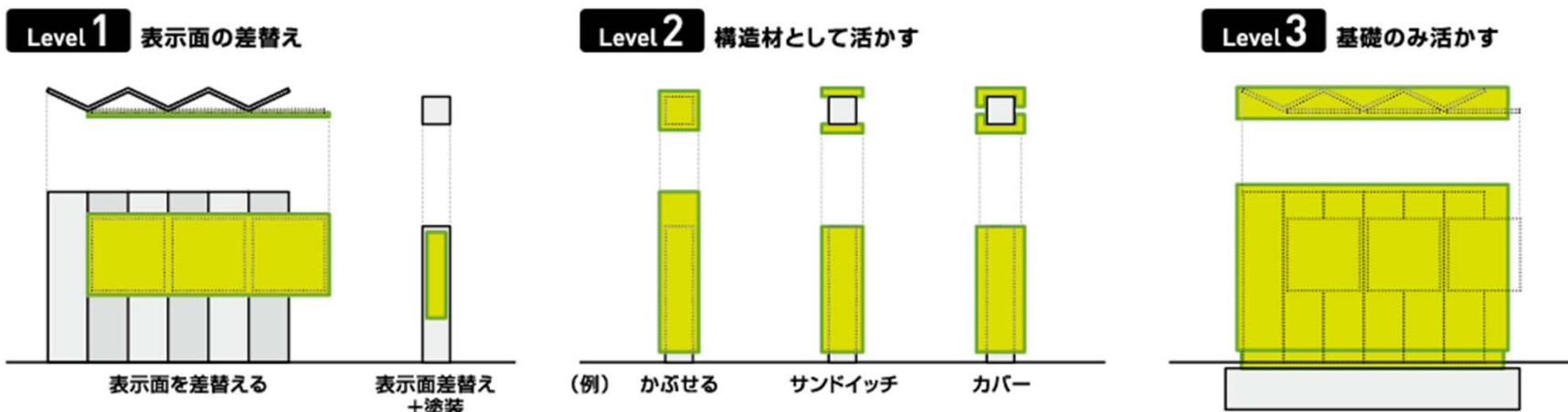
撤去



STEP 2



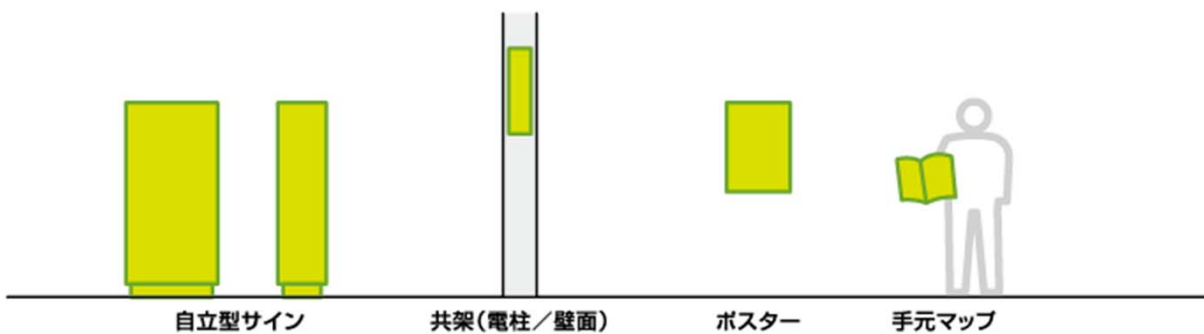
リノベーション



STEP 3



新規



デザイン

3) 整備の方向性



デザイン

3) 整備の方向性

案内サイン一体型



矢羽根型



短冊型



宇治らしいデザイン

- ・ 景観に融合し、素材感のあるデザイン
- ・ シンプルな形状
- ・ ヒューマンスケール

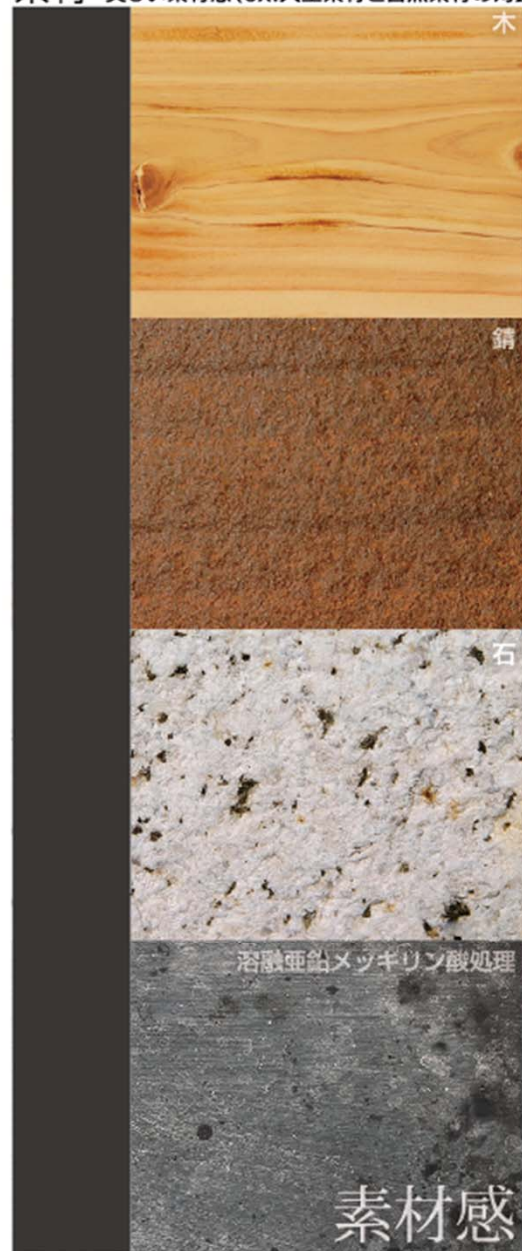
大きい

小さい

デザイン

3) 整備の方向性 - 宇治らしいデザイン

素材 美しい素材感(ex.人工素材と自然素材の対比)



形 シンプルで飽きのこない洗練された形



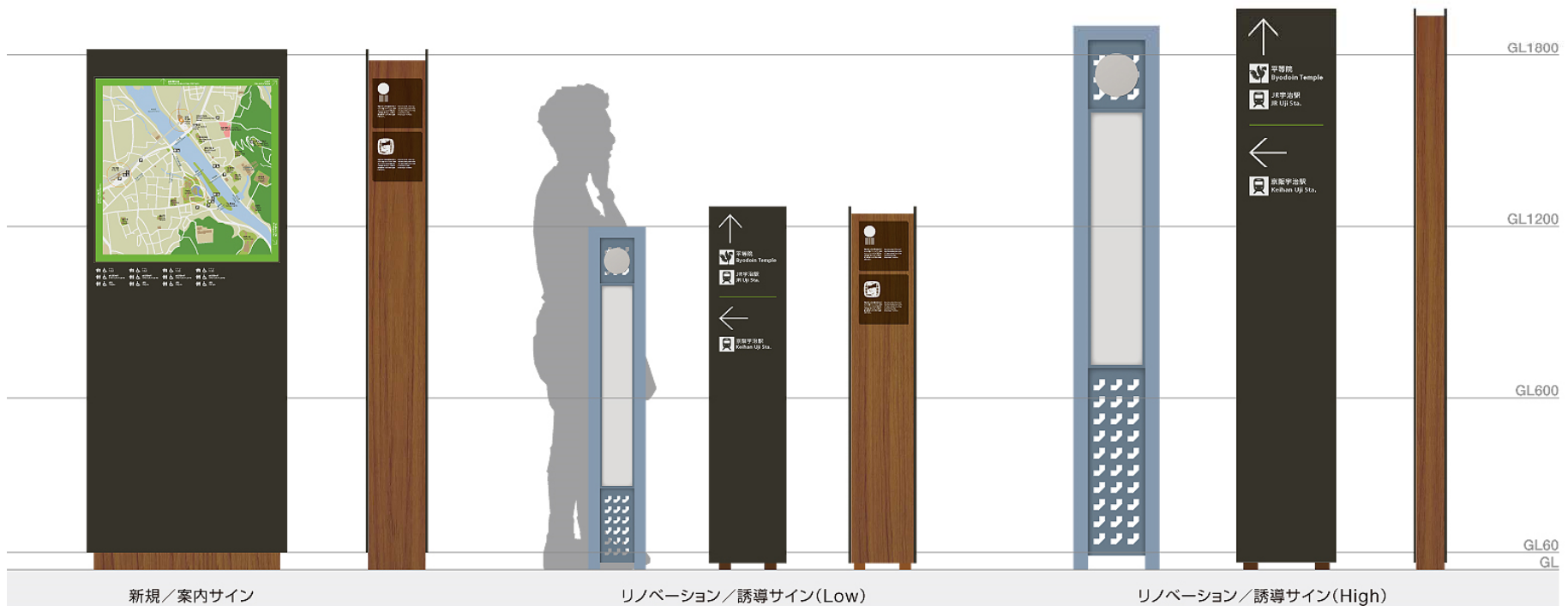
大きさ 街並みになじむヒューマンスケールな大きさ



4) 推奨デザイン案

Sandwich Standard

- 筐体柱を板面ではさんだ、シンプルでモダンなサイン筐体。
- 厚みのある筐体で、側面に世界遺産やお茶の京都などを記すことが可能。
- 木と金属板の組合せで、馴染みやすさとクールさを融合。



デザイン

5) シュミレーション写真



Before
JR宇治駅周辺

5) シミュレーション写真



5) シュミレーション写真



デザイン

5) シュミレーション写真



5) シュミレーション写真



デザイン

5) シュミレーション写真



5) シュミレーション写真



デザイン

5) シュミレーション写真



デザイン

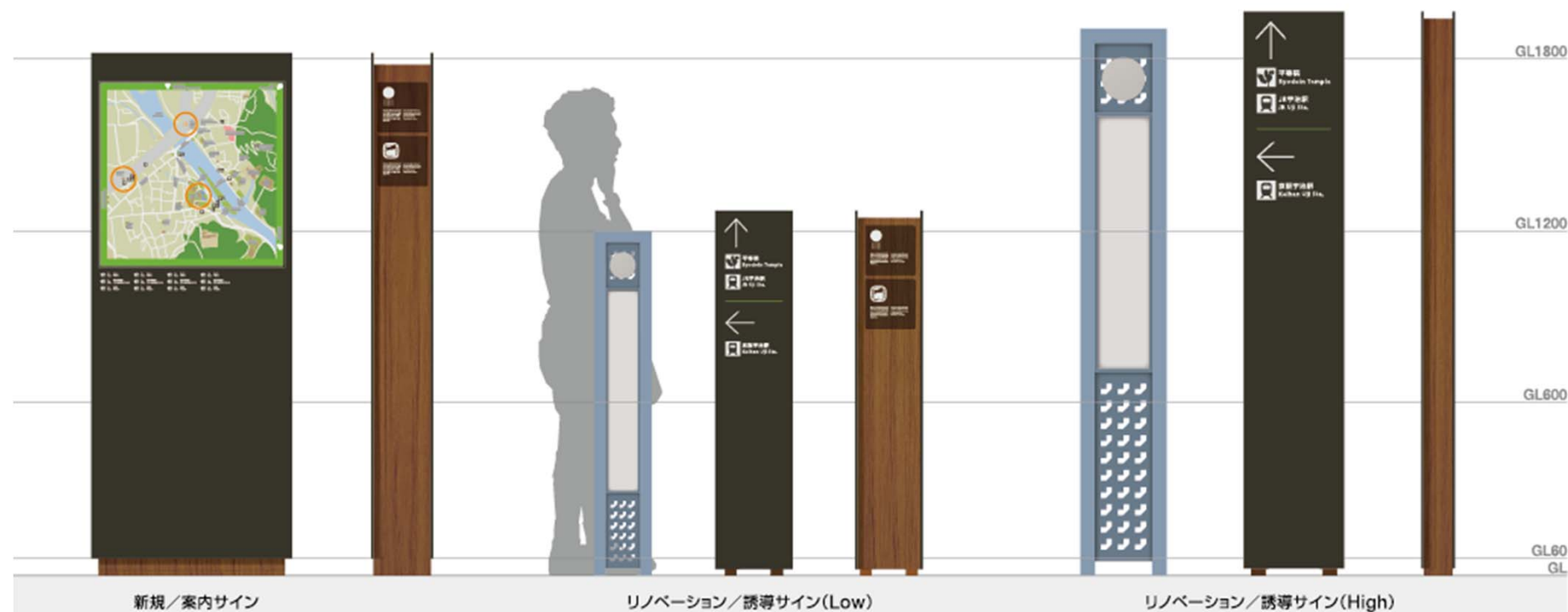
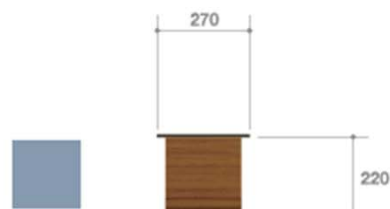
5) シュミレーション写真



6) デザイン検討案

A. Sandwich Standard

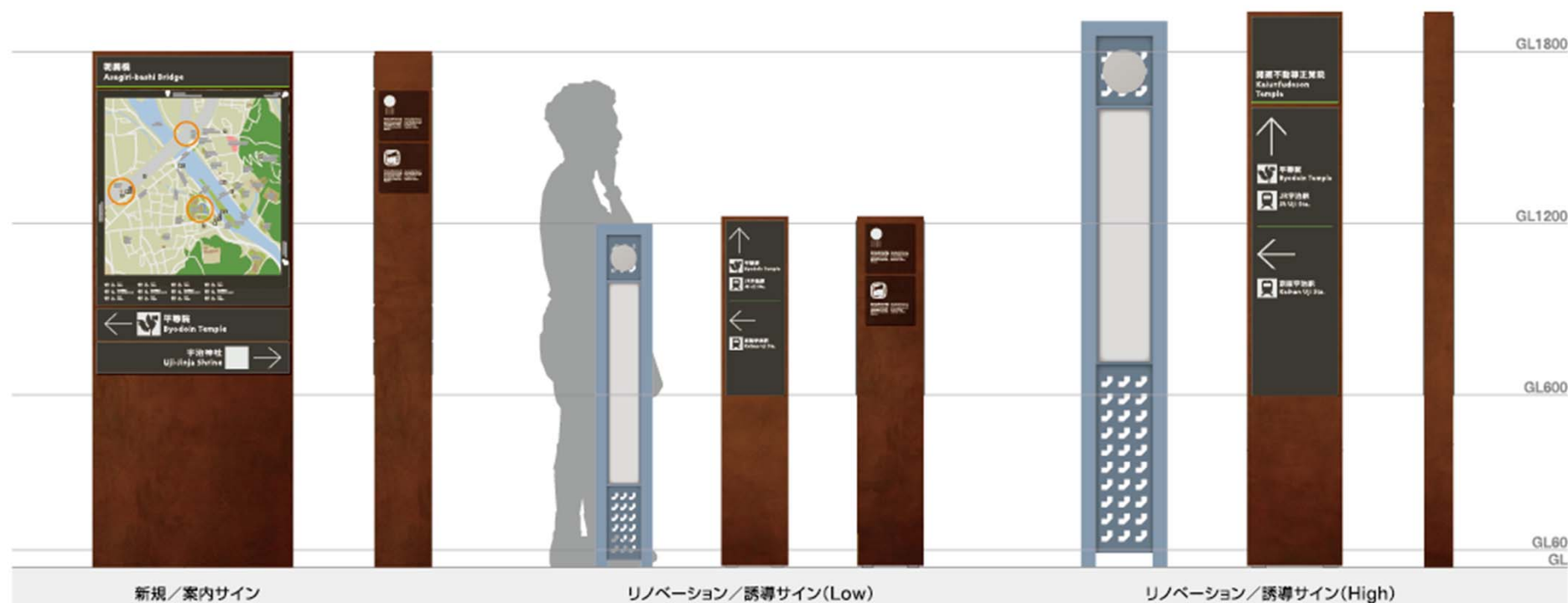
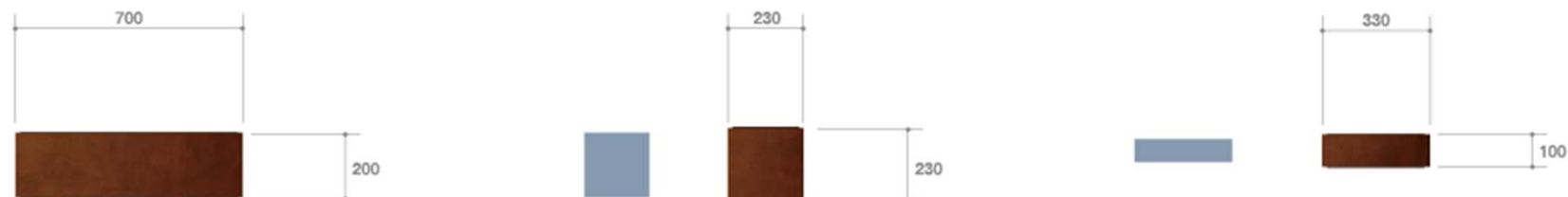
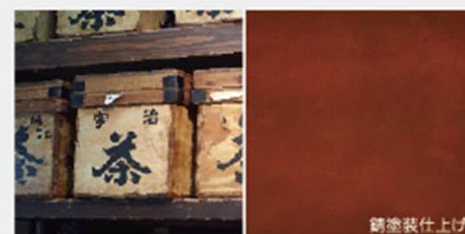
- 筐体柱を板面ではさんだ、シンプルでモダンなサイン筐体。
- 厚みのある筐体で、側面に世界遺産やお茶の京都などを記すことが可能。
- 木と金属板の組合せで、馴染みやすさとクールさを融合。



6) デザイン検討案

B. Tea Box

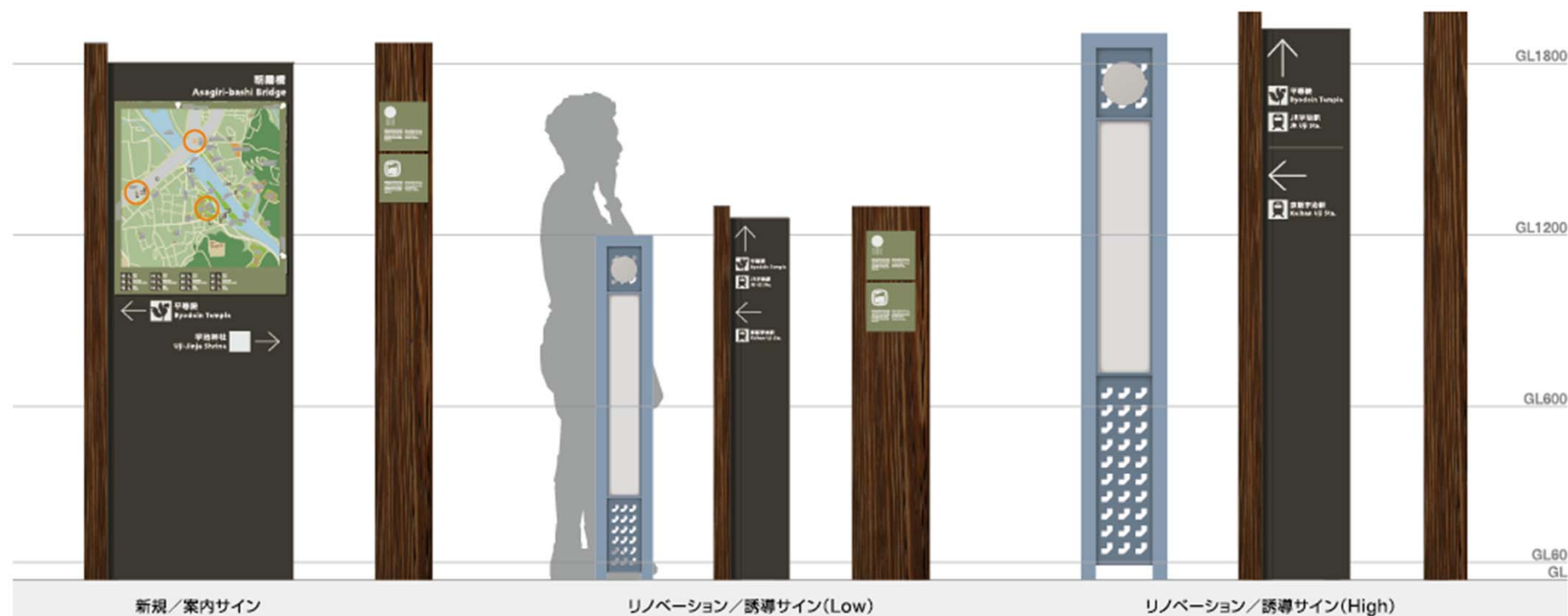
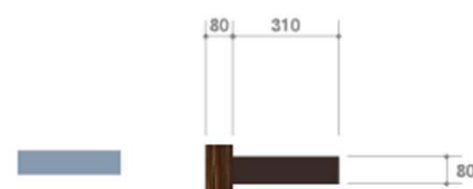
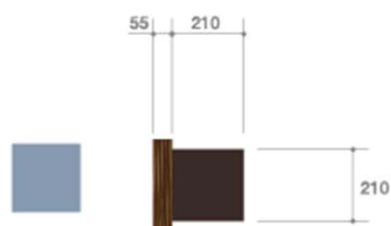
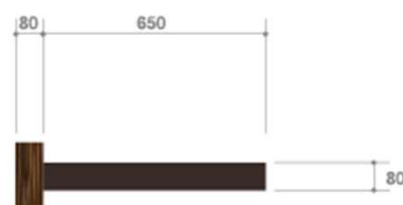
- 茶箱をモチーフに奥行のある筐体。
- 箱の上から貼り紙を貼る方法にならい、表示面を筐体に貼り更新性を考慮。
- 加工のしやすさや耐久性を考慮し、筐体(箱)は金属板の錆塗装仕上げとした。
- 錆塗装仕上げにすることで、経年変化で味わい深く。



6) デザイン検討案

C. Icon Material

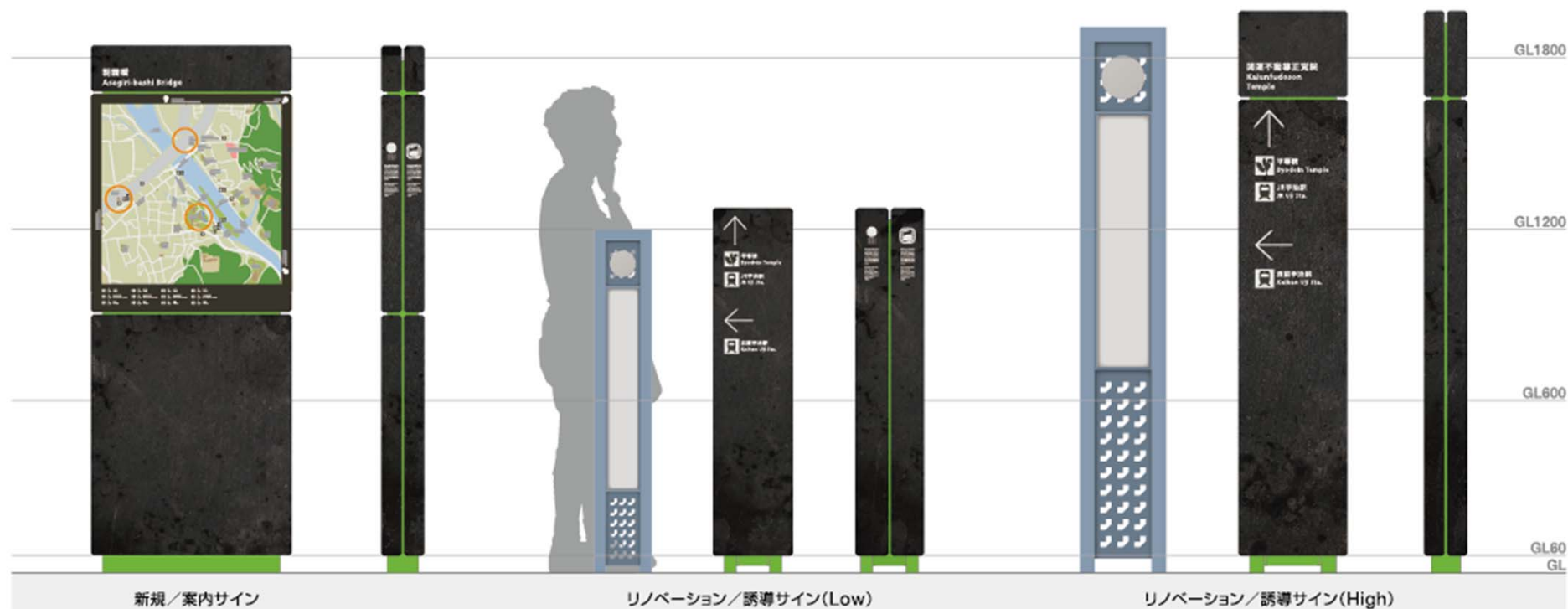
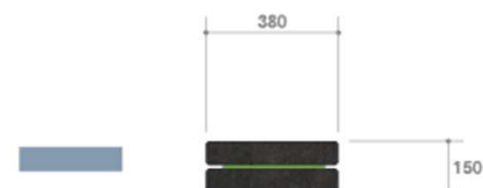
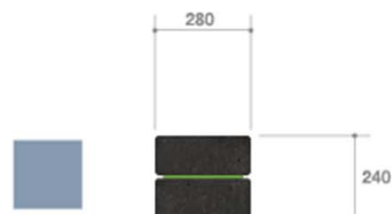
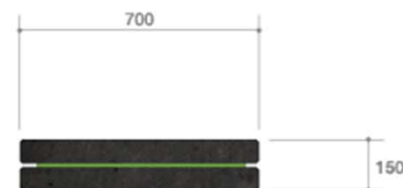
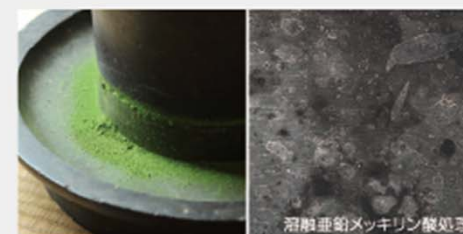
- 素材を塊で見せ、サインのアイコンをつくる。
- 素材を柱、表示を面にして展開。
- 厚みのある木材で表示面に負けない、ボリューム感を出す。(木材の詳細は要検討)



6) デザイン検討案

D. Green Slit

- 鮮やかなグリーンをスリットでみせる
- 溶融亜鉛メッキリン酸処理(濃グレー)にすることで、素材感を演出。



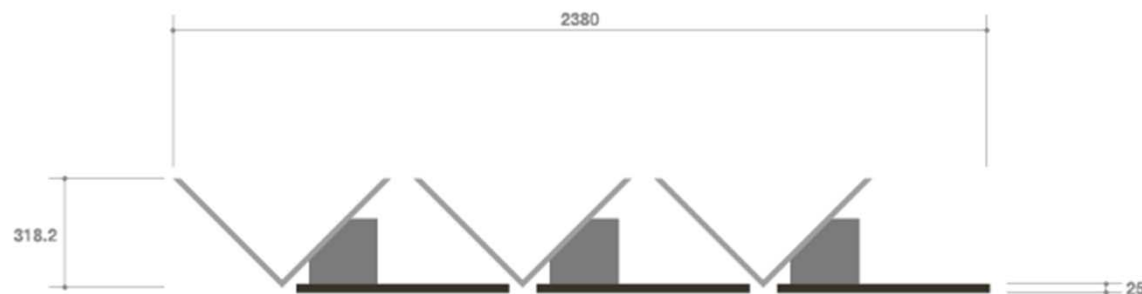
7) リノベーションデザイン案

現状

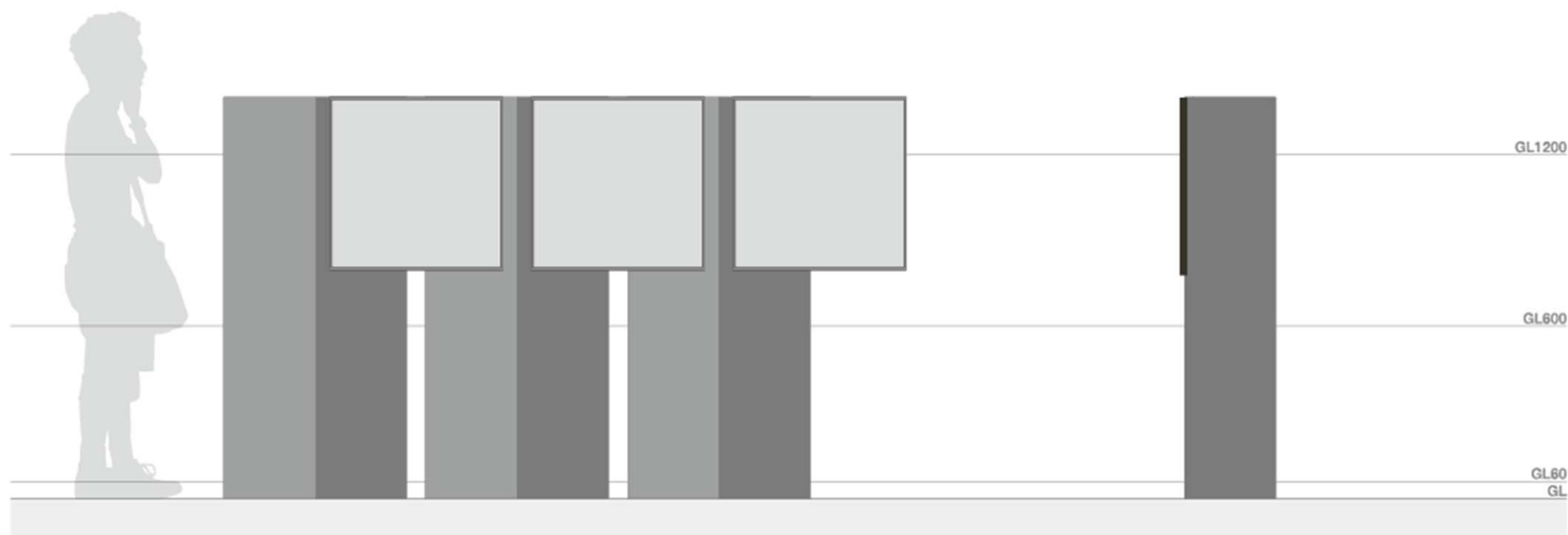
- 基礎と筐体はアンカーで止まっているため取り外すことも可能。
- 屏風部分は厚み15mmのアルミ板で大変重厚。



現状



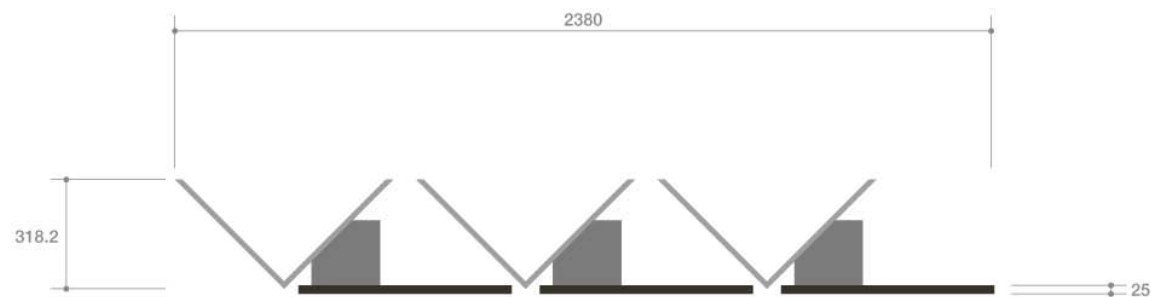
GL1800



7) リノベーションデザイン案 — 推奨案

1. タテ長の表示面

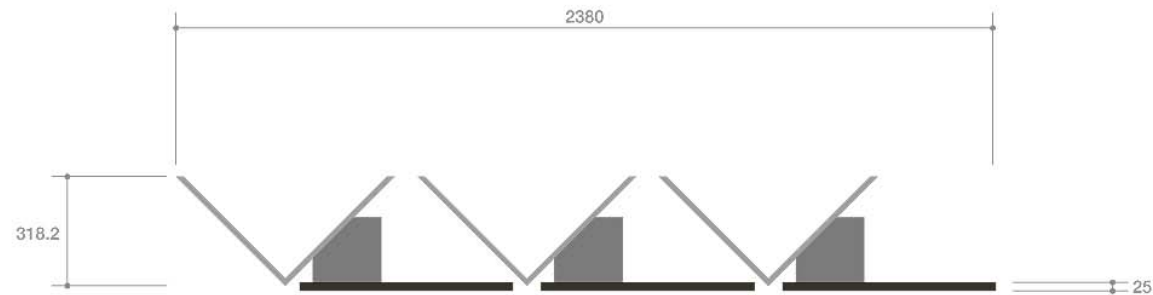
- 表示板面をタテ長にして、新サインとカタチの印象を近づける。
- 表示面を若干高くすることで、見やすい位置に表示がくるようにする。



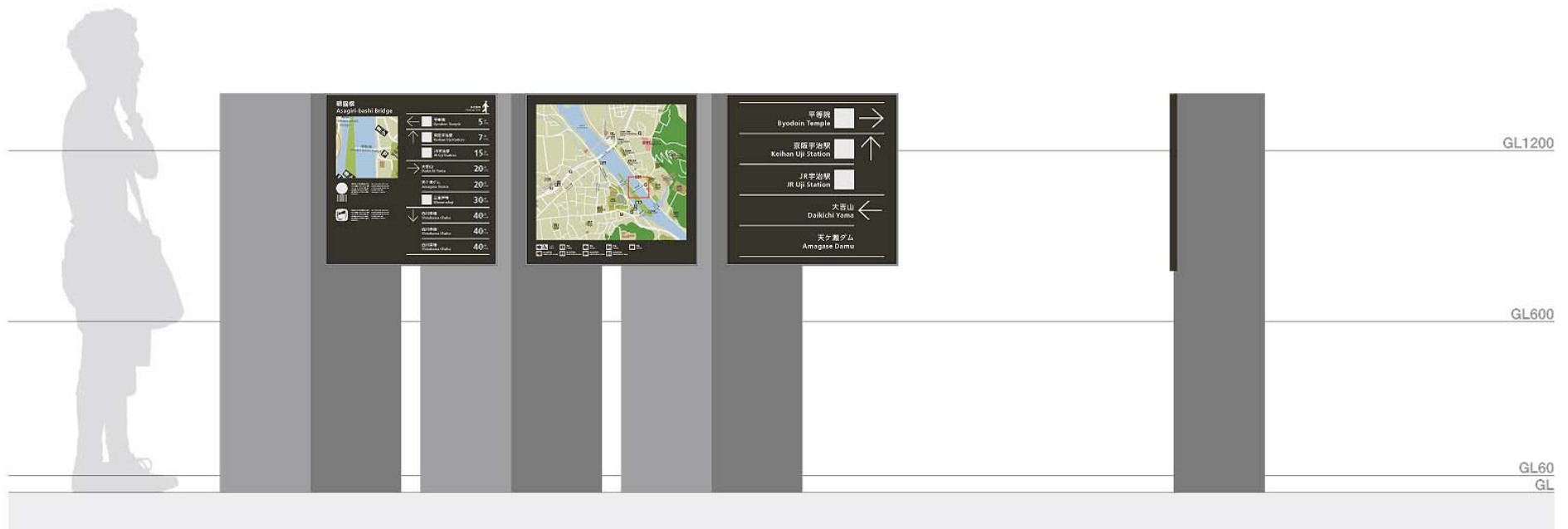
7) リノベーションデザイン案

2. 表示面のみ更新

- 既存の筐体をそのまま生かし、表示面のみ更新する。
- 筐体は塗り直しなども行い、色合いで新サインとの足並みをそろえる。



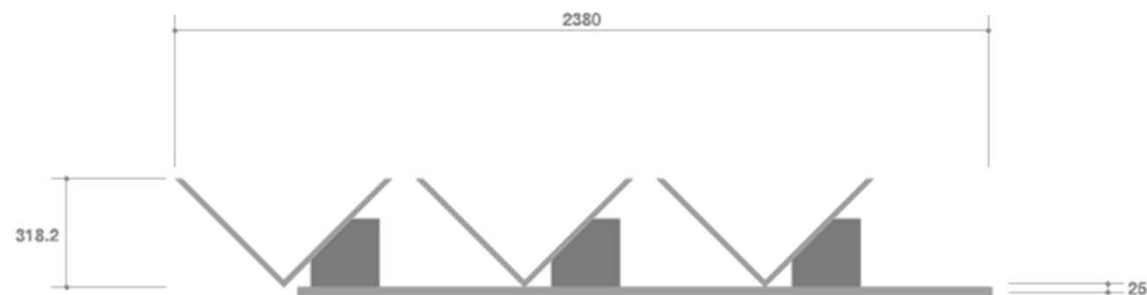
GL1800



7) リノベーションデザイン案

3. 一体型表示面

- 表示を一体化させ、表示面を大きくし顕在性を高める。
- 若干高めに設置することで、見やすい高さに調整。



GL1800

GL1200

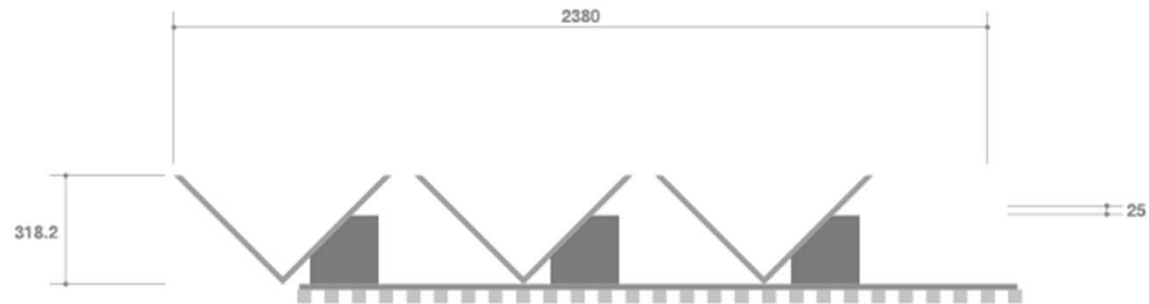
GL600

GL60
GL

7) リノベーションデザイン案

4. 縦格子との組み合わせ

- 縦格子を用いて、日本らしさを演出。
- 屏風筐体は背景になるよう、縦格子と塗り分ける。



GL1800



8) 表示デザイナー 推奨案

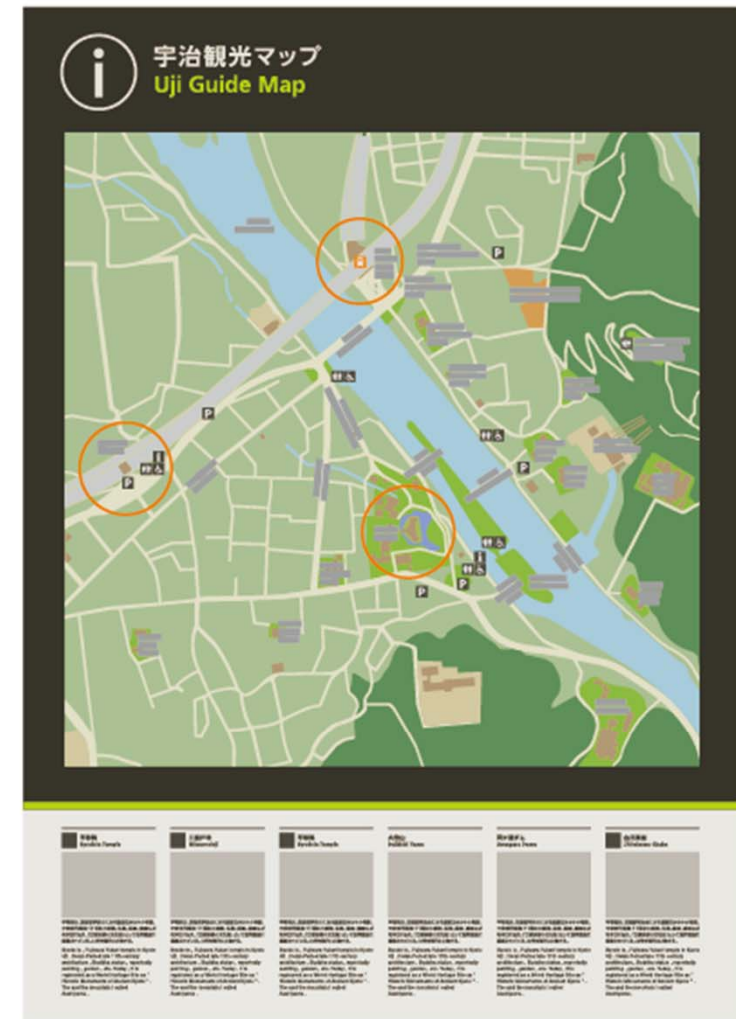
寂・渋・モダン

- 寂や渋などを連想させる深みのある濃灰色に鮮やかな緑を指し色にした、日本モダン。
- 濃灰色が背景とを切り離し、文字やマップに目がいやすい。

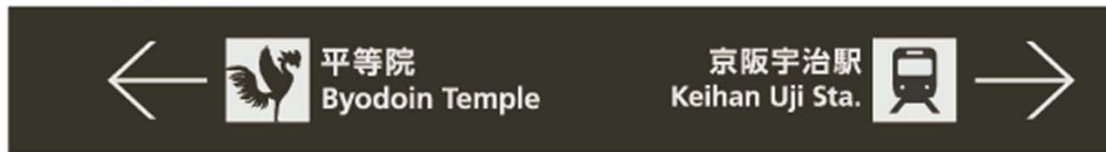
手元マップ(見開きイメージ)



ポスター(イメージ)



誘導サイン(例)



デザイン

8) 表示デザイン

のどか・和やか・雅

- まろやかな色味で、のどかさやなごやかさを感じさせるカラーリング
- やわらかな印象で、親しみやすい。

手元マップ(見開きイメージ)



ポスター(イメージ)



誘導サイン(例)



8) 表示デザイン - 外国語表記の検討

2カ国語

- ・日本語
- ・英語



4カ国語

- ・日本語
- ・英語
- ・簡体字
- ・韓国語



5カ国語

- ・日本語
- ・英語
- ・簡体字
- ・繁体字
- ・韓国語

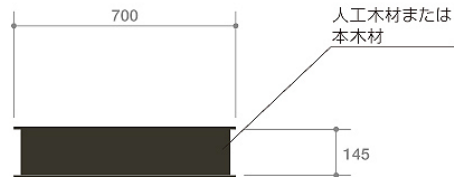


9) 表示の更新検討

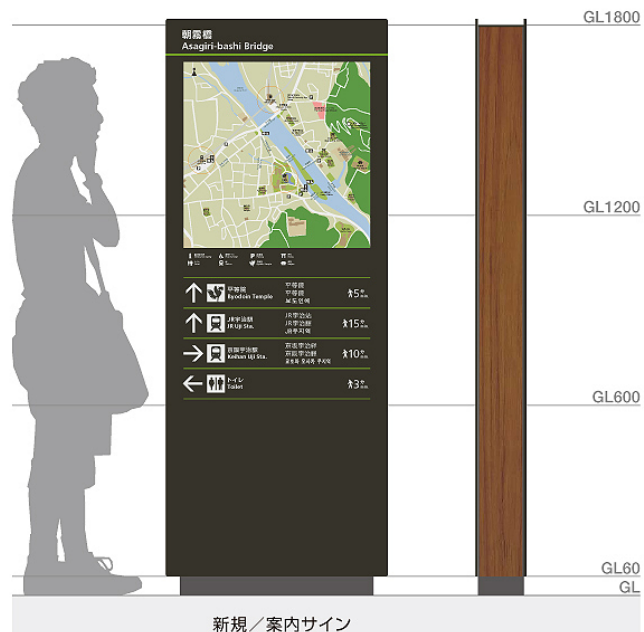
1. 表示面全面を更新

- 表示面全面をシート巻き込み貼り。
- 表示面は板一枚でシンプルだが、シート巻き込みによってエッジの処理が見えてしまう。

Sandwich Standard



シート
巻き込み貼り



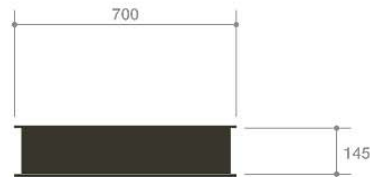
シート巻き込み
によりエッジ処理
が見えてしまう

9) 表示の更新検討

2. 表示面一部を更新

- 地図・誘導情報部分のみ、表示面を切り分け、更新しやすく。
- 更新表示面以外は焼付塗装とし、耐久性のある素材にする。

Sandwich Standard



塩ビシート
切り文字

シート
巻き込み貼り

金属板
焼付塗装



目地

シート
巻き込み貼り

目地

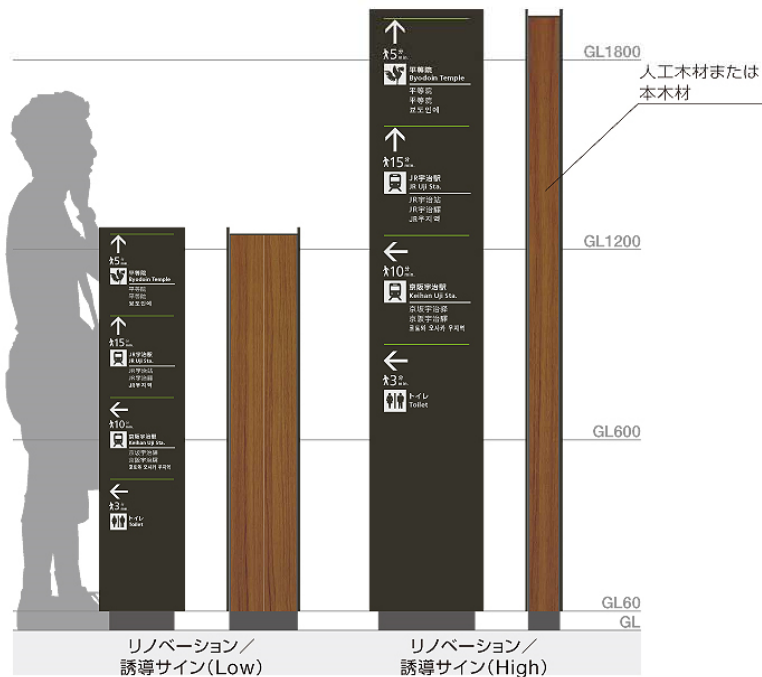
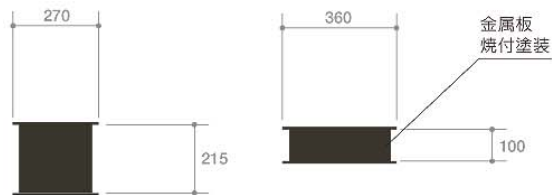
金属板
焼付塗装

9) 表示の更新検討

1. 表示面全面を更新

- 表示面全面をシート巻き込み貼り。
- 表示面は板一枚でシンプルだが、シート巻き込みによってエッジの処理が見えてしまう。

Sandwich Standard



シート
巻き込み貼り



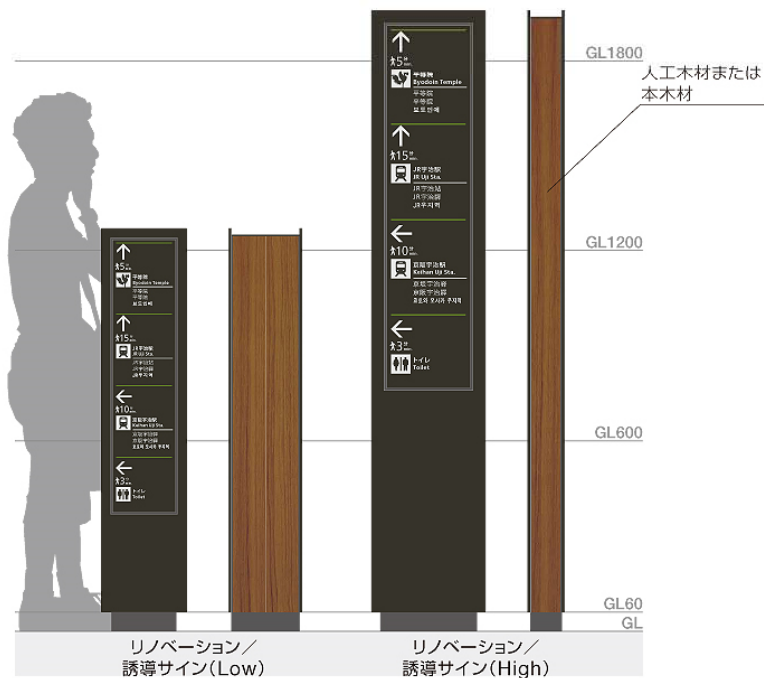
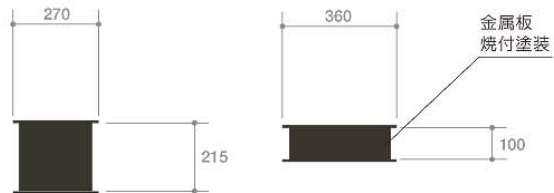
シート巻き込み
によりエッジ処理
が見えてしまう

9) 表示の更新検討

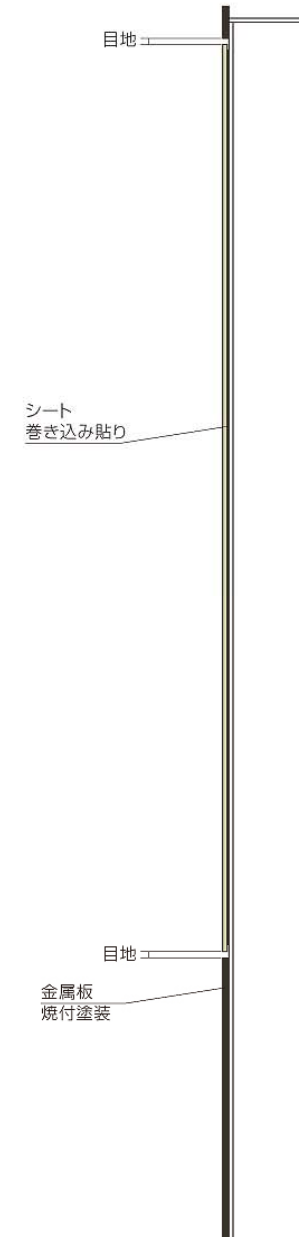
2. 表示面一部を更新

- 誘導情報部分のみ、表示面を切り分け、更新しやすく。
- 表示面のベースは焼付塗装とし、耐久性のある素材にする。
- 目地をつくるため、表示面が小さくなってしまう。

Sandwich Standard



シート
巻き込み貼り

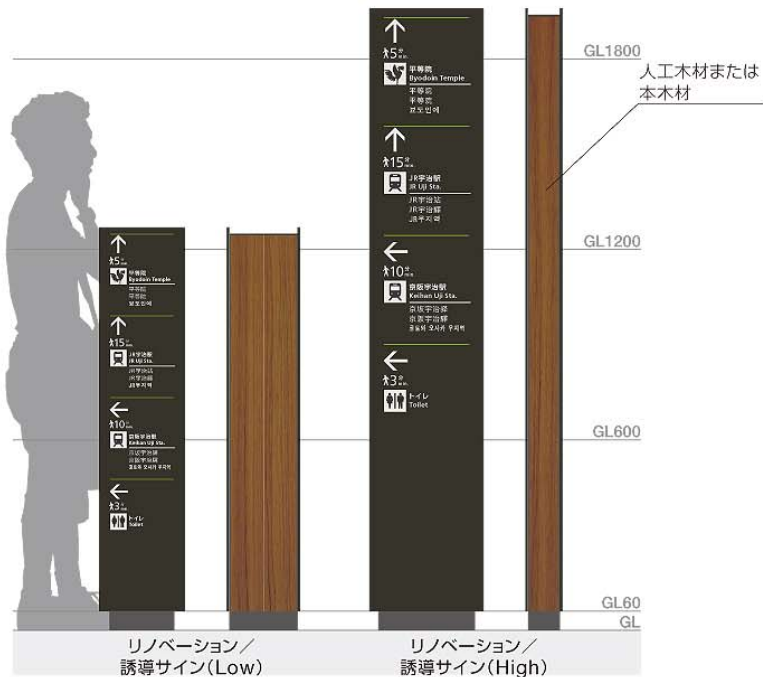
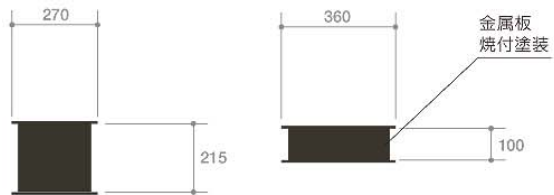


9) 表示の更新検討

3. 塩ビシート切り文字

- 表示面のベースは焼付塗装。
- 情報は塩ビシート切り文字で表示。
- 退色には強いが、いたずらで文字を削られたり剥がされる可能性がある。

Sandwich Standard



塩ビシート
切り文字

金属板
焼付塗装



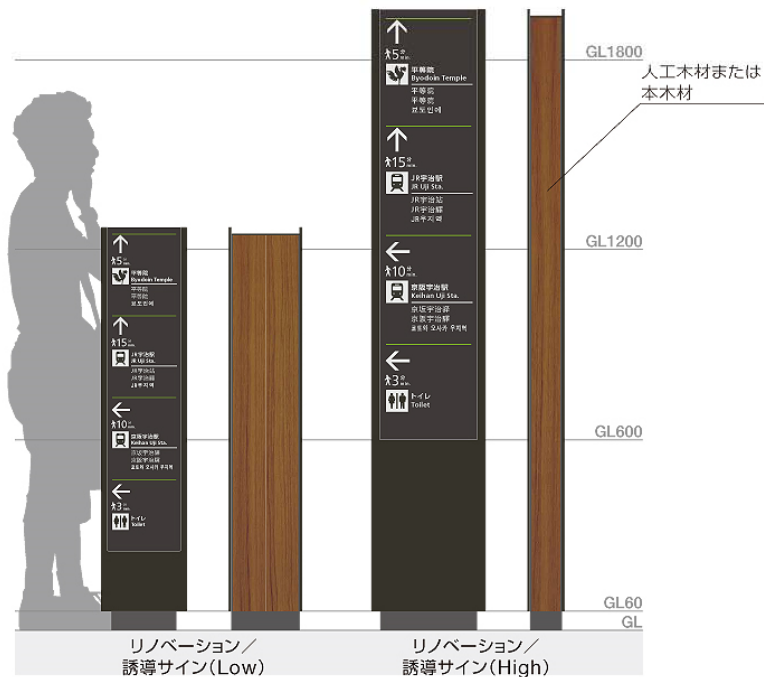
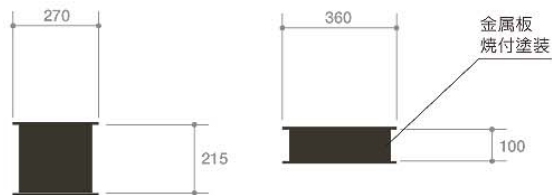
シート巻き込み
によりエッジ処理
が見えてしまう

9) 表示の更新検討

4. 表示面上部のみ巻き込み

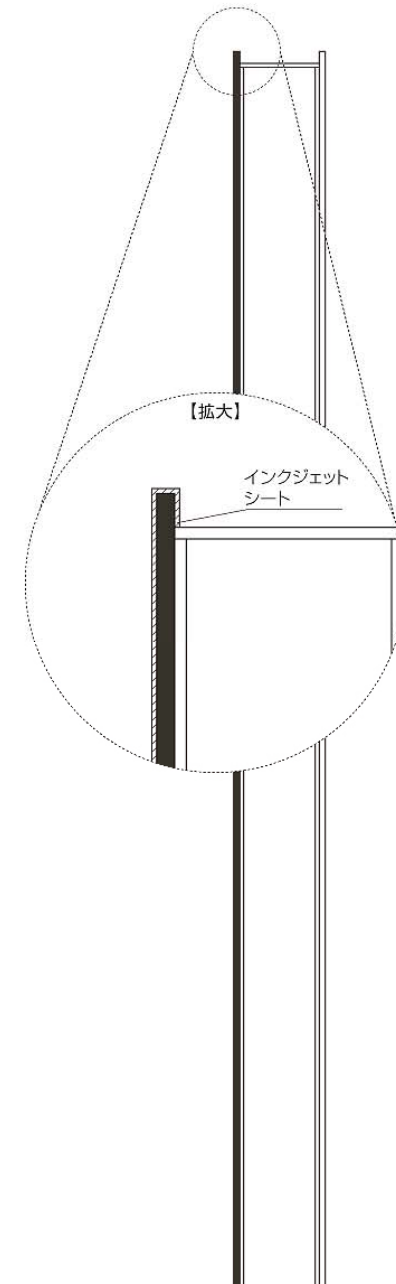
- インクジェットシートを表示面上部をコの字に巻き込み貼る。
- 表示面のベースは、焼付塗装。
- シートの小口(白)が目立つため、色を塗るなどの処理が必要。

Sandwich Standard



インクジェットシート

金属板 焼付塗装



10) 推奨案の選定

● デザインの検討

	A : Sandwich Standard	B:Tea Box	C:Icon Material	D:Green Slit
デザイン性	シンプルでモダン	茶箱をモチーフ	素材感を主張	都会的イメージ
製作・メンテナンス	表示面が独立 メンテナンスが容易	鍍塗装の耐久性に問題	木部がブロックであり、 素材の検討が必要	スリット部の施工検討
コスト	A ・ B ・ C 案 は 、 ほ ぼ 同 じ			他に比べ高価
評価	推 奨	—	—	—

● リノベーション案の検討： 1～4 の 4 案を検討

- ・ 表示の大きさ、見易さ、シンプルさで 1 案を推奨案とする。

● 表示デザインの検討：

- ・ まちとの調和、文字やマップの見易さから「寂・渋・モダン」を推奨案とする。

※先行して整備する日本遺産のサインで色合いを確認する。

● 外国語表記：

- ・ 誘導などシンプルな表記については、日本語を含む 5 ヶ国語表記とする。

● 表示の更新検討：

- ・ 表示の更新の手法については、実施設計段階で施工性も検討した上で決定する。

5. モデル整備配置案

モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン→改修 (一体化、表示統一)



2



3 案内サイン→撤去



2 誘導サイン→改修 (表示の統一)



4 →移設+改修



6 →改修



1 解説サイン→撤去



2 →撤去



1 複合サイン→撤去



※ 表記がないものは存置とする

新 新規案内サイン

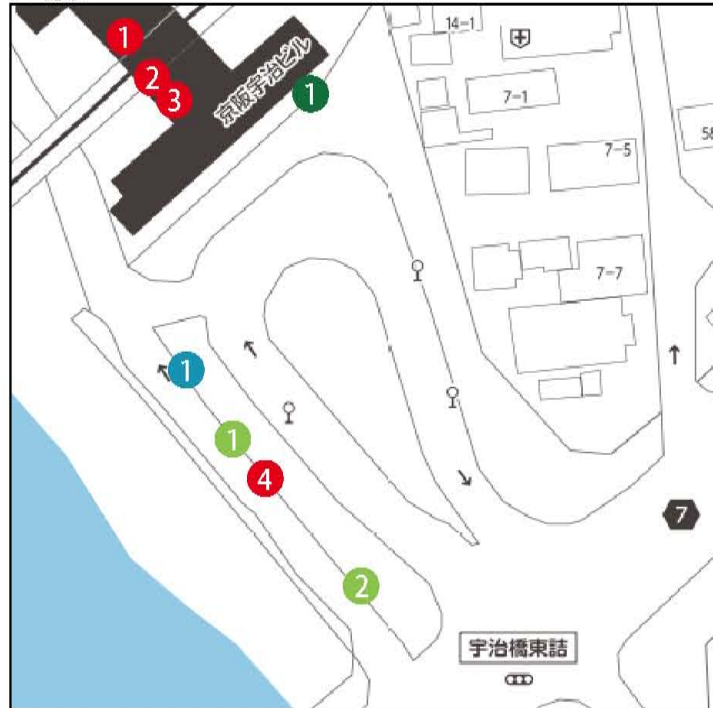


モデルプラン：JR宇治駅

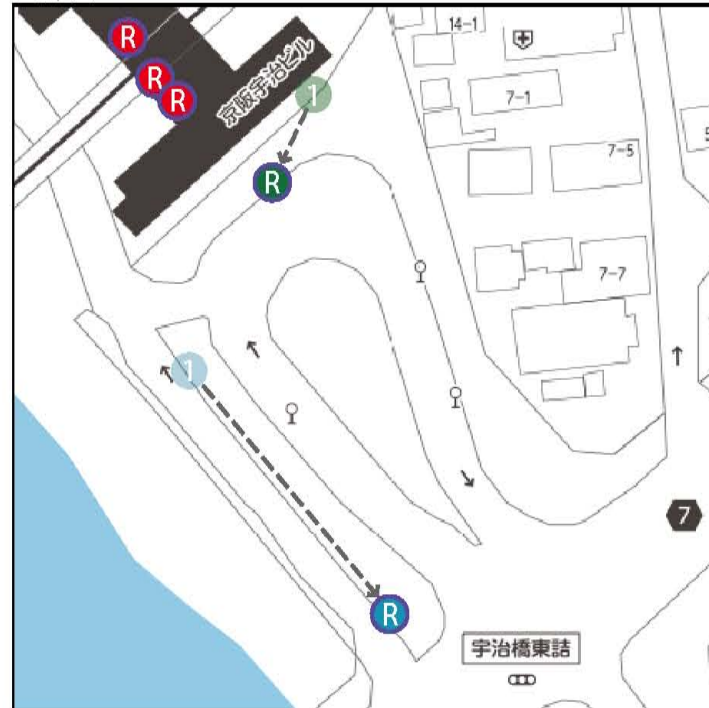
モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン (駅) → 改修 (表示の統一)



2 → 改修 (表示の統一)



3 → 改修 (表示の統一)



4 案内サイン → 撤去



1 誘導サイン → 移設 + 改修



1 複合サイン → 移設 + 改修



1 解説サイン → 撤去



2 (オリエンティングの案内) → 撤去
(@複合サインに集約)



※ 表記がないものは存置とする

地図表示の改修
オリエンティング
情報の記載



モデルプラン：京阪宇治駅

モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新

1 案内サイン→撤去



1 誘導サイン→撤去 3 →撤去



5 →改修



6 →撤去



8 →改修



1 複合サイン→改修



2 →改修



1 解説サイン→撤去 or 改修



2



3



4



1 記名サイン



※ 表記がないものは存置とする

モデルプラン：宇治橋西詰

モデル整備配置案

1) モデル地区整備計画案

■ 現況



■ 計画



	既存サイン 改修	新設 サイン
1 案内サイン	R	新
1 誘導サイン	R	新
1 記名サイン	R	新
1 解説サイン	R	新
1 複合サイン	R	新



※ 表記がないものは存置とする



モデルプラン：あさぎり橋袂



6. 運用計画

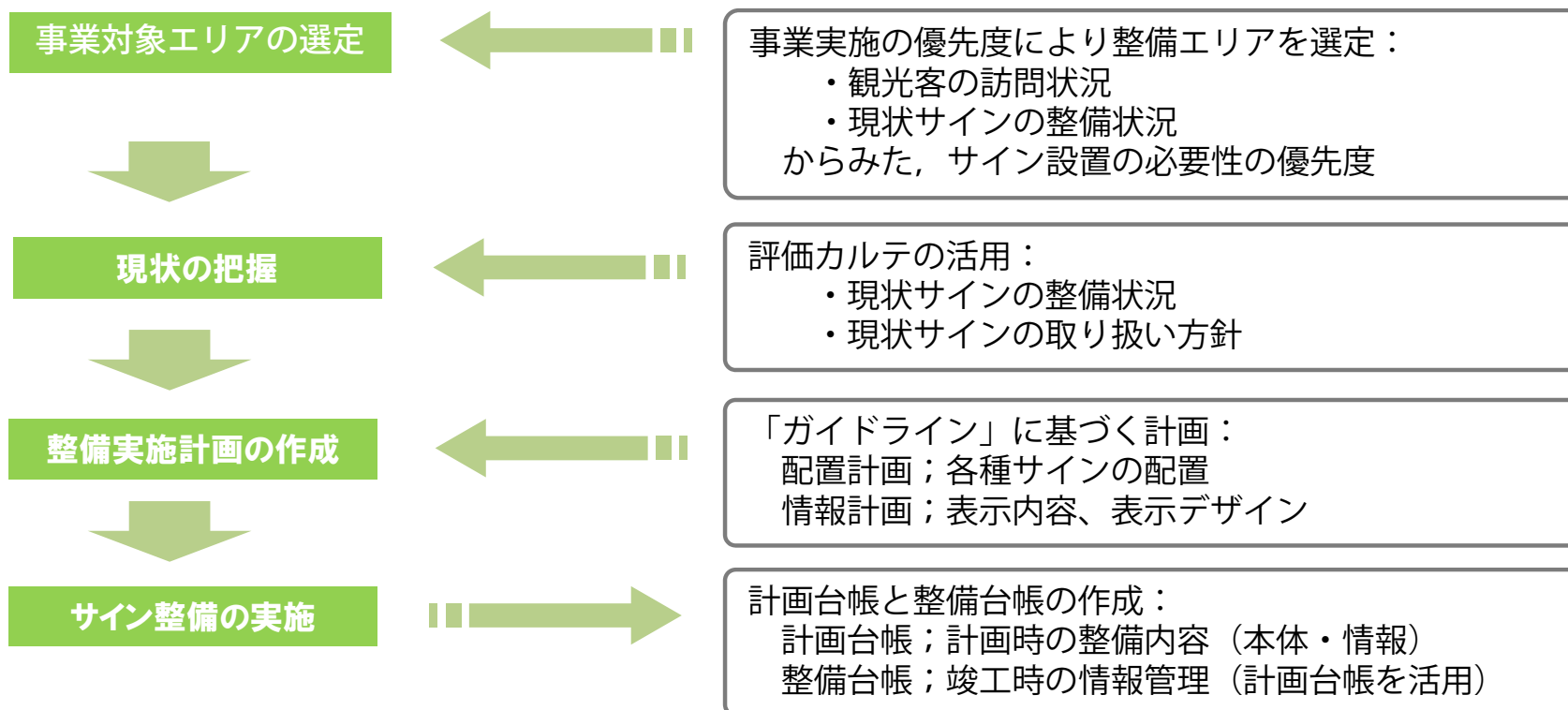
1) ガイドラインの運用

●ガイドラインの適用について

「ガイドライン」は宇治市が行う観光案内標識の整備の考え方を示したものであり、今後宇治市内において展開される公共サインの整備についても、その適用が望まれる。また、民間事業者についても「ガイドライン」に示された考え方にもとづいた整備が推奨される。

宇治市ではすでに景観条例が定められており、サインに関しても一定のルールが示されている。「ガイドライン」はこれと整合を図っていくとともに、厳格なルールとしてデザインを規制していくものではなく、関係者間の合意形成を図る際の指標として運用されることが望ましい。

●ガイドラインを活用した整備の手順を以下に示す



2) 検証と振り返り

●検証

サイン整備においては事業実施時及び整備後の検証を行う。

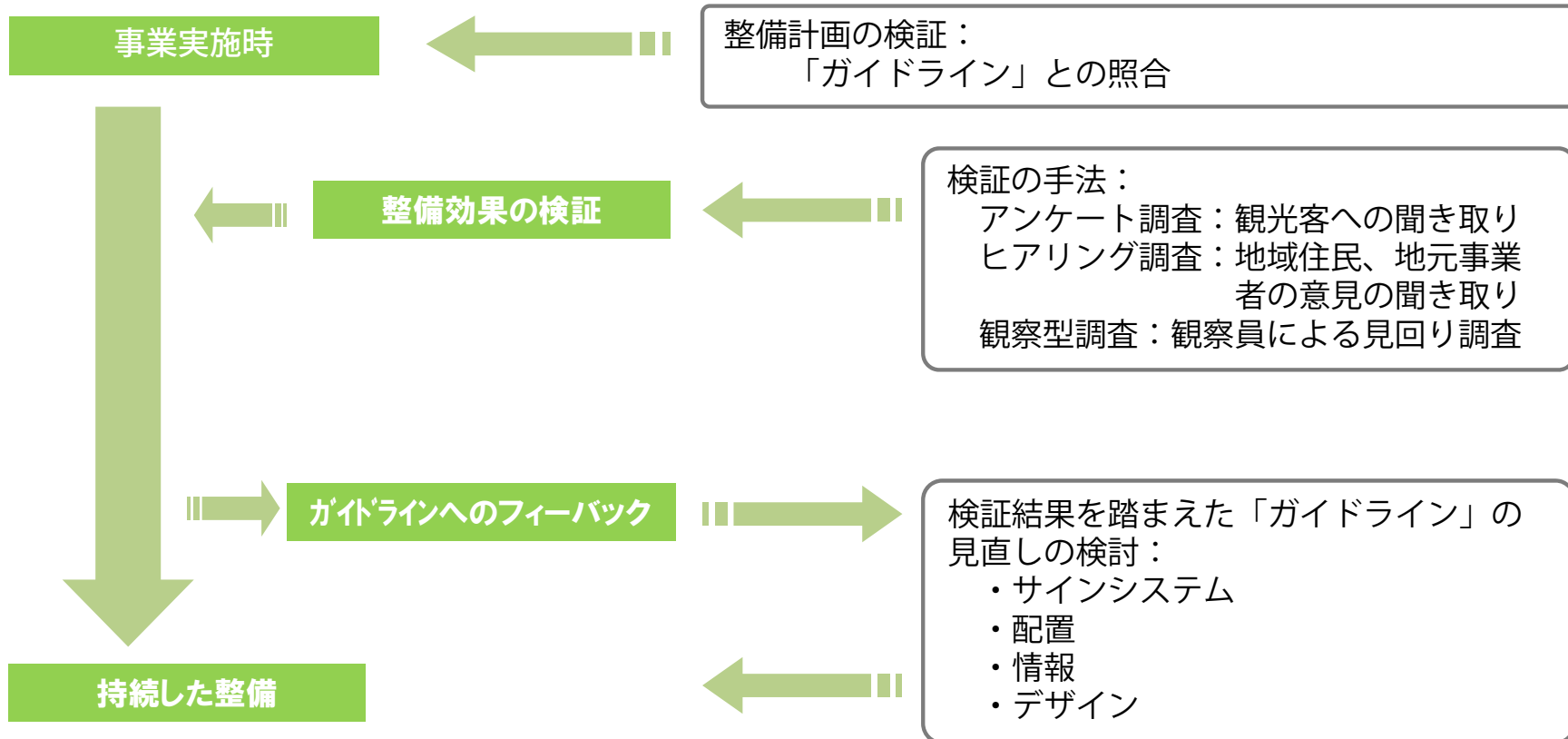
事業実施時；実施計画と「ガイドライン」の照合、

整備後；整備効果の検証

●振り返り

検証により整備や整備効果に問題がある場合は、「ガイドライン」の見直しや改修の検討を行う。

●検証と振り返りの考え方



3) サインのメンテナンス

●目的

- ・観光客（利用者）にとって真に役立つサインであり続ける。
- ・まちの景観価値を下げない。上昇させることを目指す。



観光客の満足度の向上 ⇒ 来訪者の増加 ⇒ 地域価値の向上 ⇒ 地元住民の満足度の向上

●役割

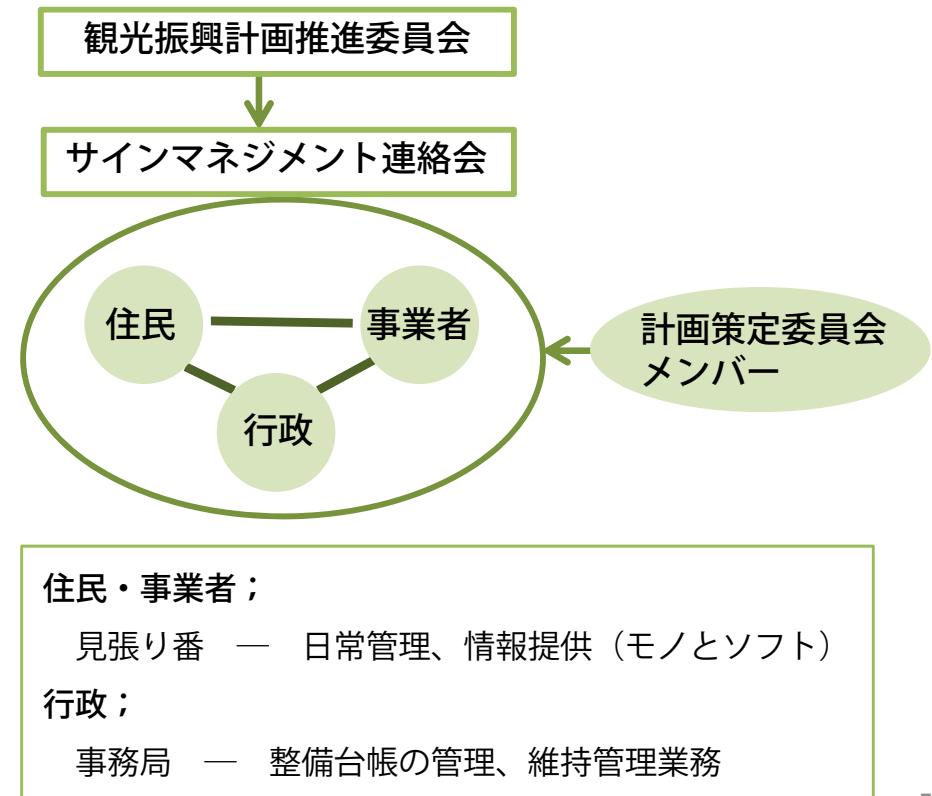
- ・破損、老朽化への対応
- ・情報の更新、情報ニーズの変化への対応
- ・日常的な清掃管理



キレイで役立つサインであるために

●体制

- ・観光案内サインの維持管理をスムーズに行っていくためには、行政・地元観光事業者・地域住民の3者の連携が必要となる。
- ・行政任せではなく、事業者、住民が積極的に参画できる組織が求められる。
- ・「ガイドライン」の見直しが生じるような場合等、3者に加え計画策定委員会のメンバーも適宜参加し、協議していくものとする。



參考資料

計画台帳と整備台帳の例（京都市観光案内標識）

●計画台帳

観光案内標識計画台帳				管理 No. 案5
管理土木事務所名		西部土木事務所		標識種別
案内サイン		630型		AA
位置	路線名			設置個所
	中書島川端線(2)			京都市伏見区東柳町
表示高	m	車道端よりのクリアランス	m	現況写真
標識歴	標識板	支柱		
平成 年 月				
平成 年 月				
平成 年 月				
板面記載事項				
表面		裏面		
長建寺 → ↑ 大手筋通 十石舟乗船場 →		← 長建寺 ↑ 京阪(中書島駅) ← 十石舟乗船場		

●整備台帳

観光案内標識整備台帳				管理 No. 案5
管理土木事務所名		西部土木事務所		標識種別
案内サイン		630型		AA
位置	路線名			設置個所
	中書島川端線(2)			京都市伏見区東柳町
表示高	m	車道端よりのクリアランス	m	現況写真
標識歴	標識板	支柱		
平成 年 月				
平成 年 月				
平成 年 月				
板面記載事項				
表面		裏面		
長建寺 → ↑ 大手筋通 十石舟乗船場 →		← 長建寺 ↑ 京阪(中書島駅) ← 十石舟乗船場		
位置図				

■京都市観光案内標識での台帳の例

記載事項；

- ・管轄土木事務所・サインの種別・場所の情報・改修、補修の履歴・表示内容

■宇治市観光案内標識の台帳案

記載事項

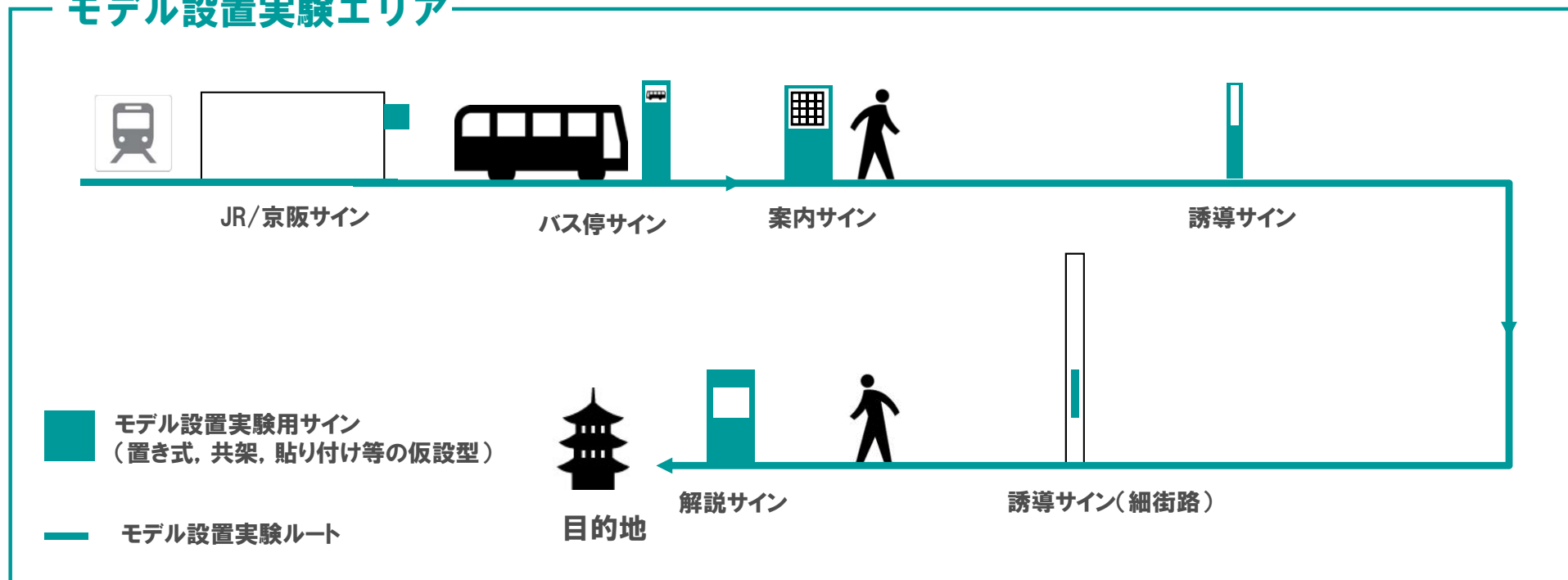
- ・設置者・管理者・関連部局・管轄土木事務所・サインの種別・場所の情報・改修、補修の履歴・表示内容

検証の手法案（整備前）

●モデル設置実験の例

- JRや京阪、バス停を起点とし、周辺の著名地点（目的地）までの案内、誘導、記名サインを仮設型で設置する。
- 利用者に実際に歩いてもらい、サインの種類、位置、情報内容、大きさなどの有効性や課題を抽出する。

モデル設置実験エリア



仮設型サインの参考事例

四条通交通社会実験（2007）



・案内、説明サイン



・案内、説明サイン



・通り記名サイン



・バス停サイン



・アンケート

***モデル設置実験においてはデザイン性の検証も考慮する**

検証の手法案（整備後）

●アンケート型調査

- ・宇治市の観光施設や集客施設の近辺において、基本的に観光客を対象に聞き取り調査を行う。
- ・調査員によるヒアリング調査とする。
- ・目的地までスムーズに到達できたか、欲しい情報、サインの有効性などについて調査を行う。
- ・データ数は日本人50件、外国人50件程度（可能な場合はそれ以上とする）

●観察型調査

- ・公共交通の起点から、あらかじめ想定した目的地を目指して調査員が歩くことで、設置されたサインについて現地で感じた問題点や要望を調査シートに記入していく。
- ・調査員は手元マップやスマートフォン、タブレット端末などを携帯して歩き、実際の観光客に近い形での体験とする。
- ・調査員の構成としては、行政＋専門家に加え観光事業者や地元関係者、市民有志や留学生などとする。
＊外国人メンバーは英語圏およびその他の語学圏から最低各一人の参加とする。
- ・調査項目の例；
整備する側と利用する側の双方の視点から検証していく。

	チェック項目				
サインの種類	配置 (景観・視認性)	表示内容 (情報内容, 情報量)	文字・ピクトの大きさ	デザイン	その他